
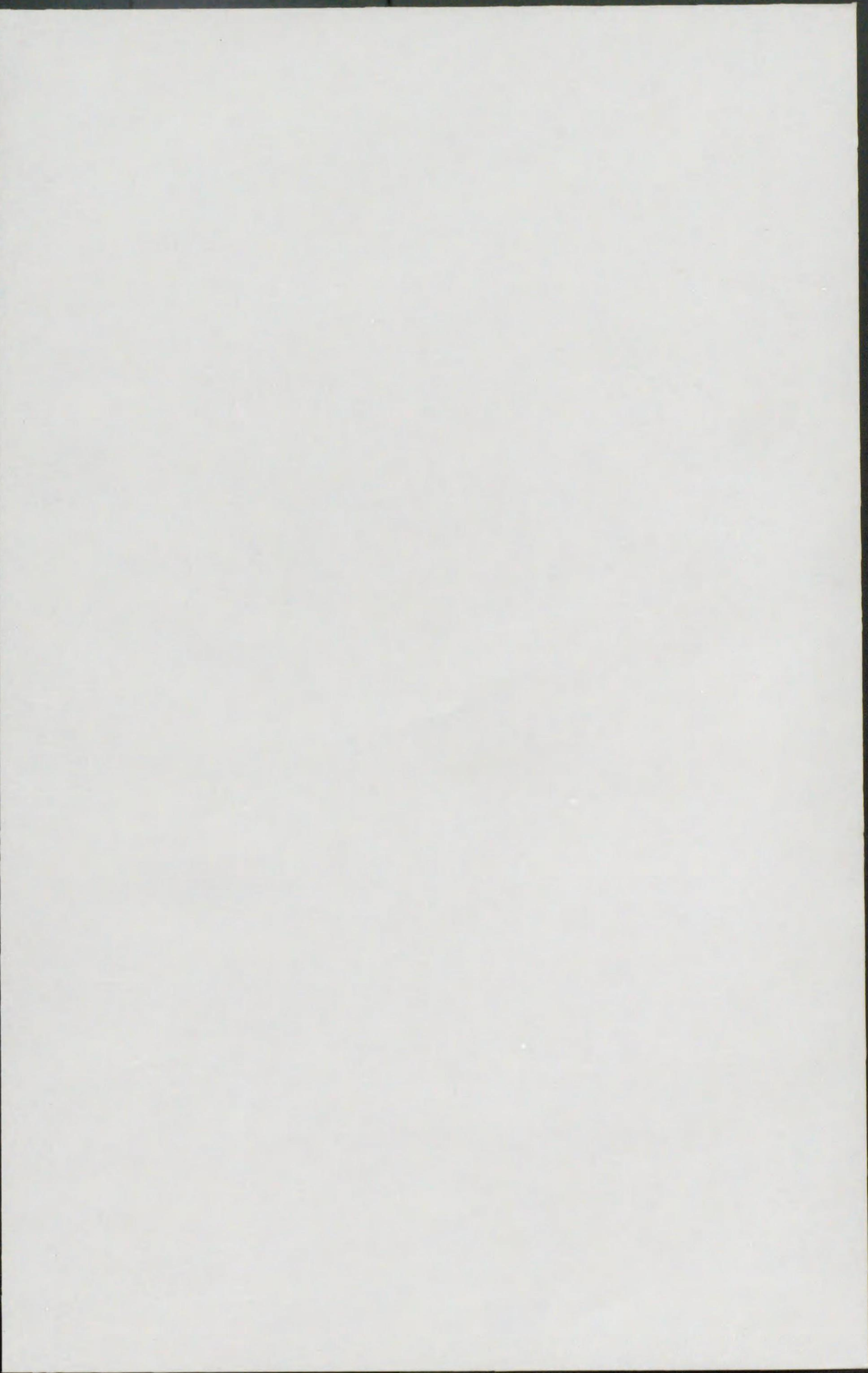


661
92

661-92

1200501572634







の

印
象

好

馬

好

書





661-9

序

昭和四年の四月十二日に横濱を出帆して、二十一日にハワイのホノルルにつき、五月十八日にホノルルをたつてカリフォルニアに向うた。これが第一回のハワイの旅であつた。それから昭和八年の二月一日に横濱をたつて、九日にホノルルにつき四月の十八日にホノルルをたつて二十七日に横濱にかへつた。これが再度のハワイの旅である。この二回のハワイの旅において、いろいろの景色にふれ、人にふれて多大の教を受けた。その折に受けた印象を記したものを集めたものが本書である。

本年の二月武雄がハワイのヒロの東本願寺の開教使として赴任するに際し、饌別としてこの書の出版を思ひたつたのである。しかるに、いろいろのさばりがあつて、彼の出發の際に間に合はず、この頃やうやく校正が了つた。恰も校正の了つた日に京都高等工藝學校教授本野精吾君が來訪して、二三日逗留せられたのを幸に表装をおたのみしたところ、快よく書いてくれられました。このことのために出版が延引になつてをつたのかも知れぬ。とにかく、美しい表装を得て本書の公にせられるのを喜ぶ次第である。

本書はハワイのお近づきの方に読んでいただきたい。又内地の私を知れる方々には、ハワイにおける私の相を見るために読んでいただきたいと念じます。

巻頭に出した寫眞は昭和八年四月五日ホノルルのココナツの家にて土人の製作になれる古い偶像と並んで立つた私と武雄の小照であります。

本書の編輯と校正は武雄と眞田君とが當つたのです。

閑古鳥と行々子と山鳩の聲を聞きつつ、遙に印度のと同じ鳴聲をするハワイの山鳩の聲をしのびつつこの辭を書きました。

昭和九年六月十六日

北安田にて

曉鳥

敏

ハワイの印象

目次

講演

ハワイから歸りて……………一

論文

此の火柱を見よ……………一二五

二重國籍問題……………一三五

アメリカ人とは誰か……………一四九

ポストンとニューヨーク……………一五九

詩歌

昭和四年渡布の折に……………一六九

昭和八年渡布の折に……………一七八
ハワイ小唄……………二〇三

紀行

昭和四年ハワイ紀行……………二二一
一。神戸からホノルルまで……………二二一
二。ハワイ……………二五八
三。春洋丸にて……………二八六
四。お別れの言葉……………二八九
昭和八年ハワイ紀行……………二九三

一。大洋丸から……………二九三
二。ホノルルから……………三〇二
三。ヒロ日記……………三〇六
四。ヒロから……………三三二

五。ヒロから……………三三七
六。三月十二日以後の日記……………三三九
七。四月七日以後のハワイ日記……………三六一
八。ホノルルから……………三七六
九。北安田たより……………三七八
ワイルクからヒロへ……………三八四
ホノルルからヒロへ……………三八六
ガワイからヒロへ……………三八九
四月八日の朝……………三九三

ハワイの印象

時
鳥
如
草

ハワイから歸りて

曉 鳥 敏

—昭和八年五月一日夜—

どうしたことか聲のかれたことのない男でありますけれど、今日晝頃からふつと聲が出なくなりまして、かういふ變な、自分が聞いても不愉快な聲が出ます。皆さんもさぞ私が話苦しいほど、お聞き苦しいことであらうと思ひます。そしてよく向うの方の方に聲が通らないかもしれませぬ。なるべく私の聲の手傳ひするやうな意味で、近くお寄り下さりたいと思ひます。

一月の末にこちらで集りがありました。その折に申しましたやうに、一月の三十一日に横濱を出帆する大洋丸に乗りまして、ハワイの方に向うたのであります。ハワイはアメリカの一縣になつてをるのであります。ですから、アメリカのハワイ縣の方に



まるつたのであります。二月の九日の日にホノルルに着きました。ハワイと申しますと、太平洋上における島であります。横濱からは三千四百哩、ハワイからサンフランシスコまでは二千六百哩と申します。さうですから日本とアメリカの間の、三と二位の比例のところにある島であります。すべて八島から出来てをります。その中で主な大きい島はオアフ島・マウイ島・カワイ島・ハワイ島のこの四つであります。ホノルルはこの縣の首府であります。石川縣金澤市といふやうなもので、そのホノルルのある島はオアフ島であります。私を今度招聘したのは、このオアフ島のホノルルから汽船に乗つて十二時間ほどまゐりましたところのハワイ島の主都ヒロといふところにあります。東本願寺の教團であります。

ホノルルには西本願寺の別院もありません。浄土宗・眞言宗・禪宗の別院もあります。先年もまゐりまして各方面で講演をした好もありますので、九日に着いたその夜東本願寺で講演を致しました。その後毎日毎夜講演をつづけまして、二月の十四日の夜ホノルルを發つて十五日ハワイ島のヒロに着いたのであります。それからその夜の招待

會に出席して講演をしてから、續けさまにハワイ四島を廻つたのであります。即ち一ヶ月の間丁度二月十五日から三月十五日まで、丸一ヶ月間ヒロの本願寺を中心に、ハワイ島の各地を廻つたのであります。それからマウイ島の方にまゐりまして四日間、ホノルルを経てカワイ島の方にまゐりまして八日間、それから再びホノルルの方にかへりましたのが三月二十九日であります。それから四月の七日までホノルルに滞在しました。七日の晩に發つて八日の朝再びヒロにまゐりまして、十六日まで滞在しました。十六日の午後ヒロを發ちまして十七日の朝船はホノルルに這入りました。翌日の十八日にホノルルを出ます淺間丸に乗つて二十七日の朝横濱に着くはずであつたのが、二十六日にちよつと荒れたものですから少し時間が後れて、午後二時頃上陸するやうになりました。

私が日本を出發しますときに、行きしなには大洋丸で行つて、戻りには淺間丸で歸るといふ豫定をしてまるつたのであります。私がまゐります頃には、ゼネバにおける國際聯盟が雨になるか雪になるか、まだめどがつかんときであつた。その後急轉直下

して、たうとう日本が聯盟を脱退するやうになりました。日本から行つてをられました。松岡洋右さんは、イギリスからアメリカを経て御歸國になるやうになりました。丁度私の乗ります船に乗込んでアメリカの方からお出になつたのであります。さういふ具合で九日の間一つの船にをつて、一つの食堂で御飯を食べる機会を得たのであります。ホノルルにおける松岡さんの歓迎の様子を見、また横濱東京における松岡さんの歓迎の様子を見まして、日本の國民の意氣の如何にも盛なことにもふれまして、非常に愉快に力強さを感じたのであります。

私がハワイに滞在してをりました日数は、約七十日であります。その中に船に乗つて島々を往復するために時間が十日ばかり費えましたので、正味二ヶ月間でありました。その間に講演をした数は百回あまりであります。日曜日などは、午前六時に第一回を始めて、十時に第二回、午後一時に第三回、三時に第四回、七時に第五回、さういふやうな具合で、一日五回に互つて約七時間も八時間も話をした日が度々ありました。先年ハワイに行つた頃はアメリカ本土にまゐる途でありまして、殊に視察が重であり

まして、一ヶ月間各地を視察しましたが、知合の方が多ので視察と同時にやはり三十日間講演をしたのであります。今度はヒロの東本願寺の教團が多額の費用を投じて招待したのであります。まあ日本などの經濟力から考へると、相當の大金です。私が眼が悪いために隨行を要しますので、隨つて旅費等も二人分負擔していただかねばなりません。さういふ關係で旅費を支出するために、向うは相當の負擔である。それだけの犠牲を拂うてわざわざ三千四百哩隔つた私を招いて下さつたのだ。今度は外のことは打忘れて根限り話をしたいと思ひました。私が話したいと思ひますのは、私が多年養はれました佛教の教によつて、近頃明かにせられた大和魂の自覺であります。ハワイに居りますところの多くの同胞に對して、この大和魂の自覺を促す、そして彼等同胞がたしかな生活をして、日本國民の血を享けた同胞の一人として、世界に偉大な光輝を放つやうにしてもらひたい、こんなに思つて行つたのであります。それで到るところで、日本最初の憲法であります聖徳太子のお書きになりました『十七條憲法』の「和を以て貴と爲し、忤ふこと無きを宗と爲す。」といふこの箇條を基礎として

日本の神代以來今日まで傳統して謬ることのない大和魂の自覺を促したのであります。六

アメリカの一縣としてのハワイ、そのハワイに日本から渡つた人はむろん日本國民であります。勿論日本の法律では、どんな遠方に行つて子供を生んでも日本の役場の方に出生届をすることになつてをる。それで男の子などは停年に達すれば徴兵に取られるといふ規定になつてをる。それで一方でアメリカの市民として登録され、一方で日本の國民として登録されるのであります。二重國籍を有する國民になるのであります。その二重國籍を持つた人が相當あるのであります。ところが近來それがやましくなりました。アメリカの市民權を持つてをればアメリカの官公吏に採用せられるのであります。最近までは兵隊にも採用せられてをつたのであります。が、滿洲問題が発生した後に、兵隊に採用することだけは止められたさうであります。しかし今も官公吏の選にあづかることが出来るのであります。しかし二重國籍を持つてをるも

のはその選にあづかられないといふやうになつて、日本國籍の離脱をすすめるやうになつた。さういふ問題で相當親達は惱んでをるのであります。日本の國籍から離脱して純粹にアメリカの市民にしてしまふと日本から縁が切れるやうに思ふ。さうかといふて、アメリカにをる以上は日本に國籍をもつてをると進路が開かれない。かういふ虞がある。さういふ意味で近來は随分日本の國籍を離脱して純粹にアメリカの國民になる人があるのであります。私はその方がよいと思ひ、新聞にも書きまして、至るところで日本の國籍を離脱して、純粹のアメリカ市民として立上つてほしいといふ希望を申したのであります。それと同時に今日のアメリカといふ國、このアメリカといふ國の本當の精神を發揮する、所謂アメリカの建國の精神を發揮するのは、我が日本國民の大和魂の自覺に俟つところが多といふことを私は信じてをるのであります。アメリカの建國の精神、つまりイギリスのピュリタンが新開の土地で新しく神の國を建設しようと思つて渡つた、それらの人が中心になつてアメリカ合衆國が出来た。今日はアメリカの國民と申しますと、いろんな國の人がよつてをるのであります。先日

はハワイの各地にをつてよくアメリカ人はかうだといふ話を聞きますので、私はハワイの新聞に『アメリカ人とは誰か』といふ一文を草したのであります。アメリカ人というても今のアメリカ人にはいろんな人があるのであります。最も古くからをる、まだ西洋から人が渡らない前のアメリカ人はアメリカインヂアンで、やはり日本人のやうな顔の色をした人である。それらの人達は今日では極く少しになりました。コロンブスがアメリカを發見した時に渡つたものはイスパニヤ人、それからフランス人である。次にイギリス人が渡つた。彼等ヨーロッパ人は自分で勞働することがつらいものだからアメリカのニグロといふ黒人を奴隸としてそれらを牛馬のやうに使役してアメリカの開墾をしたのであります。

その頃イギリスのピュリタンの人達は先も申しましたやうに、神の國を建てるといふやうな理想をもつてアメリカの東海岸の方に植民しました。所謂そこにニューイングランドを建設したのであります。このニューイングランドが中心になつたイギリスの領地が出來たのです。その後アメリカの獨立運動が起つた。その結果イギリス人が

中心になつたアメリカ合衆國が出來たのであります。

さういふ關係で今ではイギリスから行つた所謂アングロサクソンのみがアメリカ人のやうに考へられてをるが、イギリス人の渡つた後にドイツ人も渡りました。ロシア人も渡りました。日本人もまゐりました。支那人もまゐりました。各國の人がまゐつてをります。そして皆アメリカの市民權を持つてをります。アメリカの憲法では大統領は國民の公選によるのでありますから、どの人種の人でも大統領になる權限が附與されてあるのであります。昔は奴隸としてこきつかはれたニグロ所謂黒ん坊は、奴隸として人間らしい扱ひを受けてをりませんが、あの南北戦争で、北方のニューイングランドの高潔な精神をもつた人達、リンカーンがその中心になつて奴隸廢止の運動を起した。それから奴隸が獨立の市民權を得るやうになつたのであります。今日ではこのニグロが大變繁殖するのであります。アメリカの將來を考へる人は、最も恐るべきことはニグロの發展だと云うてをります。それに關する著書も相當にあります。

私は國における民族の消長といふことを考へるものですが、先年まゐりましたとき

にはサンフランシスコに上陸してあの近邊を視察しました。それからオクデン・ソー
 トレーク・デンヴァーを視察してシカゴに行きました。その他クリーブランド・バッ
 ロなどの各工業都市を視察してニューヨークに入り、それからヒラデルヒア・アトラン
 タを通つてニューオレアンズへ行つた。南部に私が行つたのはこのニグロの状態を視
 察するためであります。そしてこの自由平等を叫ぶアメリカにも、非常に人種差別
 待遇の心のあることを感じたのであります。世界どこの國に行つても、同じ汽車賃を
 出した人間が、人種が違ふために汽車に乗込む箱が違ふといふところはないのであり
 ます。ところが世界第一の自由の國であるといふアメリカにそれがあるのです。近來
 平等心といふことが出てきましたが、先年ヨーロッパに行つても感じました。日本ほ
 ど階級的でない國はないと思ひました。西洋人は非常に階級的なんです。階級打破と
 いふやうなことの聲が盛に揚るのも、それがために生命を賭する人の出るのも偶然で
 ないといふことも感じました。近い話があつた船です。私は船に乗る毎にいつも不快に
 堪へない。私は身體も不自由でありますし、向うに行つて仕事も相當に忙しいから、

いつも一等を選んでゆきます。船賃は三等の二倍が二等であります。二等の二倍が一
 等であります。この頃の値段で云ひますと、大洋丸では横濱からホノルルに行くに、
 三等は五十五弗、二等は百十弗、一等が二百二十弗、外にまだ端數があります。ま
 あそれ位である。日本の値段に換算すると、私の渡つた頃は一弗が五圓でありまし
 た。最近は一弗が四圓になりました。一弗四圓に換算しましても三等は貳百貳拾圓、
 二等は四百四拾圓、一等は八百八拾圓、千圓近くである。それだけ船賃が要るのです。
 さうすると三等の船賃の約四倍が一等といふやうになつてくる。さうすると一等の客
 がたくさん金を拂うてをるやうであります。私が一等に乗つていつも縮みあがるや
 うな感をするのは、三等客による儲で一等客が贅澤をしてをるといふことを感するか
 らであります。私共の乗つて歸つた淺間丸のAデッキは一等客が煙草を喫んだり、酒
 を飲んだりする部屋と、それから談話室と讀書室と、それだけにすつかりとられてを
 ります。それからBデッキは一等客室で二百あまりある。それがお客が少い。四十何
 人しかなかつた。だから相當に廣い部屋を一室もらふことが出來た。この船には宮様

二二
がお乗りになる特別の部屋が二つある。松岡さんはその特別の部屋に優待されてをられた。普通の全權大使は決してそこに乗って行かれぬといふことです。今度松岡さんは非常な禮遇を受けてをられた。その下のCデッキには一等室の一部と二等室とがあり三等室はその下にあります。船の底です。ですから三等客は水面下にをるのです。今度三等客は七百人で、規定の人数より餘計にをったのです。皆廊下に板を敷いて、その上に筵を敷いて寝てをった。丁度塵溜に芋蟲がをるやうに、蠶を飼うたやうに、そして暗い空氣の悪い中にごろごろして、人間のやうではありません。船の上り高を考へると、一等は四十人、一人千圓づつで四萬圓、三等は一人貳百圓で、七百人拾四萬圓である。そして三等の人のをる部屋は僅の面積である。一等の三倍も金を出してをる人が僅ばかりの面積のところにごろごろしてをる。一等の三分の一の面積である。その三等客が負擔してをるのだ。一等客はそれをかすり取つてをる。その人が一番上にをる。而もその一等にをる人の多くは割引券を持つてをる。官吏とか或は私のやうな坊さんは割引の優遇をうける。私は行きしなはさういふ優遇をうけたくないから坊

さんの資格なしで行つた。歸りは向うの人が切符を買うてくれられたのでさういふ手はずになつてをった。やはり一等は非常に專横であります。そして一等は御馳走が朝から晩まで食へぬほどたくさんある。むろん望みだけ選ぶのですが、天下の珍味を集めてあります。しかし私共はあまりさういふことは好きではありませんから、朝はお茶漬け香々、晝はチズにパンか、一二の魚位にしてをりました。

それから三等客は一等や二等の部屋に這入れないので。船の人に聞くと、私共はさう嚴格にしたいくないが、一等客は殊に西洋人はやかましく云ふから私共も嚴格にせねばなりませんと云ひました。なるほど船は西洋式であります。西洋人ほど階級的なものはない。いくら日本の金持が威張るといふても、西洋の金持ほどでない。西洋の金持と貧乏人とは非常な違があります。だから西洋においては平等の叫は命がけに上るのであります。そこいふと日本の國は位は重くても、持物が違うても、西洋ほど差別はないのであります。これは我々が西洋へ行かん前に思つてをる西洋と、西洋をみてきてからの西洋との相違であります。

單に船でもさういふ違がありませんが、アメリカ人なども随分階級的の頭がひどい。黒ん坊はひどく差別される。停車場でもカラードというて黒ん坊の腰掛ける別のベンチがある。汽車に乗つてもカラードといふ箱がある。私など別に何とも思はぬから時々カレードに行つたり、またさうでないところにゆく。黒ん坊の中に行つてまた白ん坊の中に行く。そしていろいろ聞いたが、この黒ん坊は非常にアメリカを呪うてをります。ところがこの黒ん坊は非常にたくさん子を生む。歐洲大戦の頃にだんだん進出しまして、シカゴで黒ん坊の代議士が出たのです。國會議員です。丁度私がこの前アメリカに行つたときフーバー大統領の奥さんが代議士の奥さん達をお茶の會に招待した。ところが大問題が起つた。白人の代議士の奥さん達はああいふ黒ん坊の奥さんといつしよに茶を飲まないといふ。面白いことを云ひます。日本ではまさか黒い顔をしたものにお茶を飲まさぬとは云はんが、アメリカ人はさういふことを云ふ。それだからというて黒ん坊の奥さんを斷るわけにいかぬ。さうすればお茶の會は大統領の奥さんと黒ん坊の奥さんと二人になる。そこでいろいろの中に入つて、黒ん坊の奥さんは缺

席するといふことになつて漸くお茶の會が開かれたといふことである。ところが近來は黒ん坊の力が發展してをる。アメリカの汽車は黒ん坊が働いて動かしてをる。汽車の運轉手も車掌も皆さうである。だから黒ん坊がストライキをやつたら大變である。本當は黒ん坊の力がえらい。働くものは勝者であります。

しかしそのニグロもアメリカ人である。大統領の選舉權がある。さういふことになると、とかくアメリカではたくさんの人がをるといふことが大事である。子供のたくさんを民族が一番の勝者といふことになる。さういふ點で私はアメリカに行つてをる日本人諸君の一種の手柄といふことを切に感じた。アメリカに行つた人は非常に子供をたくさん生んだ。私はハワイの至るところでそれを稱讚してきた。皆さんの一番えらい仕事は子供を生んだことだと云うてきた。随分生んでをる。大抵の人は七八人十人生んでをる。私の行つた或家の細君などは十六人生んだというてゐた。その中四人死んで今十二人生きてをる。この様子ではまだ生むというてをられた。また信心の深い人で、わざわざ七八十里の山の中からたづねて來た人があつた。腹が大きくて

落ちさうである。それでもお目にかかりたうてきましたというてきてゐた。私の方では産婆がをりませんので自分で取りあげにやなりません、と云うてをつた。あんたは何人持ったのか、今度で八人目です、皆自分で取り上げました、といふ。一人も死ななんだか。一人も死にません。自分で取りあげて八人生んで一人も殺さぬ。それで歳は四十だといふ。これはなかなか前途有望である。

日本の國の一番始めの神様は天御中主神、その次の神様が産巢日の神である。産巢日は産するである。日本の精神の一番肝心は生むといふことである。だから子を生むことは大事である。どんなことが出来んでも子供は生まにやならぬ。だが私はまだ子供は生まんから義務を盡さん譯である。だからせめてはと思つて生みなさいと云うてをるので。人の子で餘つてをる子があれば、その子を助けて育てることにしたいたいと思つてをります。だからハワイに行つて先づ最初に、あなた方は子供を生め、大和魂の第一は子供を生むことだと云うてをつた。ハワイは氣候がよいのです。わしも若い間にハワイに行つてをればよかつたと思ひます。何でもたくさん生まれるさうです。

ハワイの人口は三十六萬ある、その中十四萬人が日本人である。その日本人が毎年四千子供を生む。その中死んだり日本に歸るものがあるので、毎年三千人ふえるといふことである。今までは投票権のあつたものは少かつたが、今日では日本人の縣會議員が六人も出てをる。この様子だと十年たつと日本人の議員が過半数を占めるやうになるといふ。それでこの頃は白人も大分おちけづいて日本人に愛嬌をまくやうになつた。ともかく投票で大統領になれるといふなら、この一票を生み出すことが大事なことである。金を儲けるより子供を一人生むことがよほど力になるのであります。

さういふ具合に誰でもアメリカで生れたものは、アメリカの市民になるのであります。しかしこの頃はアメリカ人といふとアングロサクソンと思つてをる。イギリスから渡つたものは中心になつてをるが、それはなぜか。アメリカの建國の精神を支配したのがアングロサクソンであるからである。しかし今日のアメリカ人にはピユリタンの思想が消えかかつてをる。私はアメリカのこの精神はどこにあるかと思つたが、ボストンやコンコルドに行つてみると、このあたりに高潔なクリスチャンがある。尊い

人がをります。そこにアメリカ精神があるなと思つた。しかしながら今日のアメリカの大勢、所謂弗の國としてのアメリカは、決してピユリタンのアメリカでない。その點で新しいアメリカの一部はジューの支配、一部はイタリアンの支配であります。アメリカの財閥はナショナルバンクの系統と、アメリカイタリアンバンクの系統とであります。ナショナルバンクの中心はジューであり、アメリカイタリアンバンクの中心はイタリヤ人であります。今日のアメリカは金本位であります。この金本位のアメリカが勢力を得てをります。

ところがその時代は既に過去つたのであります。その弗本位のアメリカは世界中の黄金の六割を所有するといふやうになつた。五年前私が行つたとき世界中で一番贅澤な國と思つてをつた。ところが近來罰が當つた。世界中で最もたくさん金を持つてをるアメリカが、世界一の不況である。ハワイなどはアメリカ本國より不景氣の程度がやさしい。アメリカの各所からくる手紙をみると随分ひどいさうである。人の家に儲はれてをる人で給金をもらへん者がたくさんあるといふ。随分困つてをるやうであり

ます。それはやはり罰が當るのだと思ふ。なぜ困つてきたのか。金萬能の精神の行詰りである。この頃就任されたアメリカの大統領は就任早々にモラトリアムの令を出した。そしてインフレをやつて所謂通貨調整をやつた。まだこれで足らんものですか。からもう一遍その政策を實行するといふ。のみならず、イギリスを誘ひ、フランスを誘ひ、日本を誘うて世界經濟會議をやる準備をしてをるといふ。さういふことはよいことである。今まで不戰條約を結んで軍備縮小の會議をしてをりながら、片方では軍艦の制限、飛行機の制限をしてをりながら、ほとんど關稅戰爭を始めてをるのであります。武器の戰爭はたまらんと思つた商賣人は、自分の短所である武器の競争を制限することをやつて、一方自分の經濟競争をやらうとした。これは今までイギリス・アメリカなどの世界平和の名にかくれてをる魂膽である。日本などはそれにのせられてきた。イギリスやアメリカの金持達の一番恐いのは、一面戰である。さういふものはむしろ恐ろしくなく、それによつて儲ける財閥があるのですが、それらは特別の商賣の人である。一般の財といふ點からいへば不得手である。彼等は不得手であるから戰

二〇
争を避けた。が戦争を避けた一面経済戦争をやつてきた。その行詰が今の世界中の不景氣になつた。その根柢を改めずして直さうとしても決してかういふインフレをやつた位で直りません。心の底から改めねば駄目だと思ひます。却つて深刻な経済的な壓迫がくると思ひます。日本なども不景氣打開策にインフレをやりますけれど、これは吹雪倒れの者に酒を飲ますやうなものである。金がないかといふに金はある。金はどいうするか。毎年産出されてをる。世界の各所において産出されて、その量は年々増加してをる。ところが金が不足だといふことは、金が片廻りしてをるといふことである。片廻りしてをるので片方は困るのであるから、インフレをやつてたくさん出したつて、一方の吸収力がひどいから片廻りになる。丁度寒ければ酒を飲む、酔がさめると尙寒いからまた飲む、まだ寒いからまた飲む、といふやうに、いくら金が出来たつて、それを吸収される程度が強いからだんだんひどくなる。それは一時のがれだと思ふ。私は不景氣救済のインフレは、寒いときの酒のやうなもので、後が悪くと思ふ。日本などどう考へてをるか知らんが、それも應急手當ならよいかもしれんが、今日の

不景氣はどうもならんのであります。

私共の脈の取り方では、現代の世界の困厄の救済の道は、金をどうするかといふやうな問題でないのだ。もつと根本にあるのだ。政治家などは眼の見えんものが多いから根本の脈が取れんのです。皆人間の魂に眼がさめんで、ただ形の金といふやうなもの、或は機械といふやうなものに魂を奪はれてをる罰でないかと思ふ。だからその點からいふと、さういふ機械的な或は物質的な思想の上に立つて、この考の上に人間を幸福に導くといふところから、所謂共産運動が起ります。彼等は危険思想と云はれてをります。私共から考へると無論危険思想であるが、今日の所謂経済思想も危険思想だと思ふ。何でも金でなければならぬといふやうな思想も危険思想である。その反対に経済思想を考へぬものも危険思想である。人間に経済は大切なものに違ひない。しかし、経済よりもつと、経済を批判する人間の魂といふものが大切である。今日のこの世界中の不景氣はその魂を無視してきた罰でなからうか。この人間のハート或は靈魂といふものを無視してきたのが十九世紀文明の道程である。そこに出来たのが機

械文明であり、自由主義である。また拜金主義・個人主義である。そして共産主義まできたのである。がしかし共産主義と資本主義と、或は自由主義と平等主義とは反対のやうであるけれど、その基調はやはり近代的である。すべて自分の精神といふものはない。物質的でしかない。それで人間各自が分れ分れになる。ですからいくら交通機關が開けて遠方から米が運ばれ、麥が運ばれ、肉を運ばれるやうになつてを つても、人の心と心の交通が開けてをらぬから、親爺の金が息子の懐に入らぬ。夫の金が女房の懐に入らぬ。この運びは汽船でも汽車でも飛行機でも出来ぬ。その惱がいつまでも人間の心の中に硬化してゆく。そのよい例がアメリカであります。今世界中の政治家達が寄つて相談するといつてをるが、私共はあまり多くは望んでゐないのであります。しかし、あれくらゐしか彼等はわからんのだと思ひます。もつと根本に問題があります。その問題はアメリカなどはあのジューの勢力を退け、イタリー人の勢力を退けて、ピュリタンの精神に蘇へり、眞のアメリカの魂に蘇へるのが大事だと思ひます。それをなし得るものは日系のアメリカ人だと思ふ。大和魂の「和」を以て貴と爲

し、忤ふこと無きを宗と爲す。」この日本人にして本當にアメリカを救ふことが出来るのであります。この點でアメリカに生れた日本民族の血を受けた二世の人達は、アメリカを建設する上において、日本の魂が光つてゆくのであります。かういふ點で諸君は日本の國籍を潔く離れて、アメリカをしてアメリカたらしめることが肝要である。と、ハワイの人達に話して來たことでもあります。ハワイにおける日本人の爲さねばならぬことはハワイを日本の領地にするといふやうなそんな狭いことではなく、日本精神をもつて全アメリカを復活せしめるといふことにあるのであると語つて來たのであります。むろん彼地にをる日本人はどんな田舎に行つても滿洲問題について聞きたいさうであります。滿洲問題の真相を聞かしてくれといふ人が相當に多かつたのであります。

丁度 幸 私は一昨年、滿洲問題の突發する以前に滿洲各地を廻り、また北平方面まで巡視してきたので、ほぼその状態がわかつてをりました。また滿洲國の建設に努力した中樞の人に親しくしてをるので、その事情がよくわかつてをるので、非常時日本

の覺悟について話しました。彼等は非常に耳を傾けてくれたのであります。松岡さんがホルルの領事館のヴェランダから民衆に呼びかけられたとき、その庭園へ數千の人が集つた。私は政談演説は聞いたことがありません。金澤では永井さんなどたくさんの人に話かけられるさうであります。私はまだ聞いたことがない。松岡さんの話を聞いたのが始めて政談演説を聞いたのでした。たくさんの方が聞いてをつた。その状況をみて日本の國民には國を愛する魂が燃えてをるな、殊に異郷の空にをる人には強く愛國心が燃え立つてをるなといふことを感じたのであります。滿洲問題をきつかけに、この國際聯盟を脱退したといふことは、海外における日本人に非常なセンセイションを與へたのであります。日本の將來はどうなるかといふことを案ずるときに、日本の現在の力といふものについて非常な信頼を感じるというた者があるのであります。丁度さういふやうな時代に私がハワイを巡廻して、津々浦々の人にまで日本の精神の非常に基礎の深いことを話したのであります。世界を救ふものはこの大和魂のみである。金で世の中を組織したり、或は機械で世の中が榮えたりする時代が過ぎたので

あります。どうしても神を拜む人間はこの魂に目覺めるといふことがなければならぬ。それによつてのみ現在の世界が救はれるといふことを私は信じてをります。今度はハワイの各地の各方面の集りにそれを叫んできました。私は東本願寺の末寺の住職をしてをる坊さんであるが、今度はお東の寺はむろん、お西の方、淨土宗、禪宗またキリスト教の教會、學校と各方面にまゐりまして、そして大和魂の鼓吹を致したのであります。

私共が宗教と申しますのは、佛教とか、キリスト教とか、神道とか、さういふ宗派でないのではありません。宗派は宗教を傳へる機關であるが、宗派は宗教でない。本當に今の宗教は宗派でない。人間の魂の目覺めでありませう。自分の生活の中心の決定をする教といふものが宗教であります。我々日本民族の中心は何によつて決するか、この大和の精神、大和魂といふことが、我々日本人の中心の信念であります。そしてそれが魂であります。この魂の目覺めが全世界を輝かし、全世界に本當の救を來すと

いふことを私は確信します。ですから一方にただ應急手當をする方法として各國の元

首が經濟會議をやつてをる、不戰の會議をやつてをる間に、我々は根柢のある世界救濟の仕事を着々と進めつつあるかと思ふと、非常に愉快を禁じ得なかつたのであります。さういふ喜でハワイにまゐり、その喜をもつてハワイから歸つてきたやうな次第であります。

ハワイの面積は日本の四國ほどであります。それほどの面積に人口が三十六萬と申しますから、随分稀薄なであります。ハワイのすべてで石川縣の人口の半分位しかないのであります。ハワイに行つて私の感じたことの一つは、ハワイはアメリカに屬してから三十年あまりになるが、相當によく手が届いてをるといふことであります。この前印度を旅行したときにも思つたのですが、印度は百年位前からイギリスの支配をうけてをります。現在ではマハトマガンデーが主となつて印度の獨立運動を盛にやつてをられます。しかしまだイギリスの支配下を脱することが出来ないのであります。印度を廻つてみますと、イギリスの役人さん達が土人に對して随分專横なことをやつてをるといふことを思ひました。しかしながら、また一面イギリスは印度のため、ま

た人類のためによいことをしてをるといふことを思はしめられたのであります。といふのは、今でも印度には小さい國が澤山あります。我々は印度と申しますと、統一した全印度のことのやうに思ひますけれど、今でも印度は小さい國々に分れてをるのであります。或國は英領で、或國は獨立してをる。あつちこつち旅してみますとその様子が見えるのであります。英領の國から獨立國に這入ると直ぐにわかります。英領の國は道がよい、建物もよい、人間もきれいな格好をしてをる。獨立の國は道も悪い、建物も悪い、人間も汚い着物をきてをる。しかし獨立國だけに王様の宮城などいふやうな立派なものがある。かういふことを思ふと我々旅行者にとつては、やはり印度などはイギリスのお蔭で少しは開けたのだなと思つたのであります。

今ハワイに行つてみしてもですな、ハワイは元カナカ人が先住民族であつた。カナカ人は南洋人種の一つで、日本人などと似てをる。體格は非常に立派であるが、頭がぼんやりしてをる。だんだんカナカは滅亡してゆくのです。今もハワイはこのカナカの支配下にあつたらどうか。何でも近代のハワイを統一したのはカメハメアといふ

王様であるといふ。それが五世つづいた。その五世の人に女の子供だけしかなかつた。それでその養子を日本の皇族の中からほしいといふ申込みがあつたのだが、日本の方ではお断りになつた。その後アメリカに屬するやうになつたといふ。若し三十年前にハワイがアメリカ領になつてをらなればどうだつたかと思ひますに、やはり獨立の印度の國々を思はずにはゐられなかつたのであります。また日本の皇族のお方が御養子にお出になつて、日本が今まで支配したならばどうだらうか。かういふことも考へたのであります。さうすると私は直ぐに思ひついたのは、沖繩縣であります。

沖繩縣は元は琉球と申しまして、日本と支那との間にあつた一つの獨立國でありましたが、何でも日本の薩摩藩が琉球を通して支那と交通した。琉球といふ國は支那と日本との間にあつて、兩方の歡心を買うてをつた小國である。それが明治五年に日本國に合併した。それが沖繩縣である。それから後といふものは、日本の治下にある國であります。私は十七八年前から沖繩縣へは五遍まゐりました。相當に沖繩縣の事情を見聞してをります。沖繩縣は日本の支配下に入つてから六十年あまりたちます。三十

年アメリカの支配下にあるハワイと大分變つてをるのであります。ハワイは沖繩縣よりは廣いです。しかし土地は非常に瘦せてをります。火山のラバから大部分出來てをります。むろん砂糖も出來るし、コーヒーも出來るし、パイナップルも出來るところも相當にあるが、大部分はラバで土地が荒れてをる。沖繩にまゐりますと、ハワイよりは狭いですけれども、ハワイのやうにラバに蔽はれてをるところはありません。到るところに耕地があります。だから施政そのよろしきを得たならばもつともつと開けてをらねばならぬのであります。むろん沖繩縣の人口はハワイより多い。が非常に疲弊してをります。一時は新聞などに蘇鐵地獄などと書かれた。現在では内務省も大分考へて十年計畫として參千萬圓を支出して沖繩縣の隆盛を計つてをります。それも遅蒔きながら結構なことであります。が富の状態、開墾状態はとても、ハワイに及ばないのであります。ハワイへは沖繩縣人が一萬人行つてをります。それらを考へますと、日本の植民政策はアメリカなどより下手なのでないかと思ふ。若し日本がハワイを支配してをつたならば、そして日本が今日までの日本の状態であつたならば、アメリカ

ほどに行届いた開墾は出来なかつたかもしれません。それは私は沖繩をみることに
 いて思ふのであります、また朝鮮をみることにしても思ふのであります。さういふ
 點で私は支配することは單なる權力ばかりではないと思ふ。そこに國民一般の或る希
 望を満してゆくといふことがなければならんことだと思ひます。一面からまた印度は
 イギリスの羈絆のもとにある、或はハワイはアメリカの羈絆のもとにあるのでありま
 すが、若しその羈絆のもとになかつたならばどうなるかといふことを考へてみると、羈
 絆の下にないことが羈絆の下にあることよりも不幸ではないかと思はれるのでありま
 す。朝鮮は日本に合併せられてをる。朝鮮の獨立を思ふ者もあるやうだが、獨立の朝
 鮮より、日本と一緒になつて朝鮮は開けるのであります。今の滿洲、あの滿洲は日本
 が支配せんで、支那に任してをつたならばどうだらうか。支那で隆盛なところは上海
 であり、天津である。その上海の文明、天津の文明はイギリスの今までの力を度外視
 して考へることが出来るか。また大連の状態は日本人の力なしに考へることが出来る
 だらうか。かう思ふと、支配することは支配するだけの理由があつて支配するのであ

るといふことを私は考へます。そこをいふなら、我々は支配するといふことを急ぐよ
 りも、むしろその實質の上に、人が支配を受けることの利益を考へるやうな力を養は
 ねばなりません。

人はどういふ人の長命を欲するか。自分のためになる人の長命を望みます。毛利空
 桑といふ人は大分縣の鶴崎の人である。この人が自分が世の中に生れて二つの快事
 ある、その一つは頼山陽の死を聞いたとき、今一つは竹田の死を聞いたときである、
 と日記に記してあるさうである。面白いことである。人の死を聞いて愉快なと書いた
 のはどういふわけであらうか。空桑は山陽や竹田は儒道に害するものであると考へて
 るたから死んだことを喜んだのである。空桑はさういふことを露骨に書いた人である
 が、我々でも人の死を聞いてああよかつたと思ふことがある。また何でもない人など
 はどうでもないが、また惜しいことをしたなと思ふことがある。だからどういふ人は
 人から惜しまれるか。人の利益になる人は人から惜しまれるのです。また人に利益を
 與へる人は、人から長命を望まれるのです。多くの人の利益を考へたり、望んだりす

る人は、多くの人から生命の長いことを望まれる。さういふことを思ひますと、人からいいころ加減に思はれたくないと思ふ。あまり人のものをぶつたくつて取るやうなものは、あの人の死は天下の快事だと思はれるやうになります。

國としてもさうである。どういふ國は他の國から存在を願はれる國であるかと考へますと、その國が多くの人類の利益を考へるといふ國柄であるならば、世界の人々はその國の永存を欲するのであります。徒に自分の名前の上で支配するといふことを急ぐべきことでないのであります。我々は形の支配を急がんで、實質といふことを計らねばならぬのであります。さういふ點で日本は今度滿洲國を承認することについて、世界中の國を向うに廻して日本の主張を通したのであります。しかし、日本はまだ力が足らないのであります。松岡さんが先度ハワイで演説されたときに、自分の今度の外交は失敗だったと云はれたが、私もさう思ひます。喧嘩して別れる位なら話合ひする必要はないのです。悲しいことです。ゼネバにおける最後の日の光景は涙なしに考へられないと云うた人があつた。最後の松岡さんの演説が終つてすべて代表が退場し

たとき、場内は沈黙の瞬間であつたといふ。日本の國民の一人としては涙なしにその席にをられなかつたといふ。それは實際さうでありませう。それはまだ日本の實力が足らぬからのことであります。長いものに巻かれて向うの云ひなりになつてをるときから見れば、堂々と自分の國の主張を通したといふには力はあるのであります。しかしまだ力が足りないであります。足りないから他のものが日本のいふことを認め

てくれないのであります。淋しいことです。滿洲國を承認するといふことについて、世界中の國が日本の反對になつた。その反對の首領になるものはイギリスであります。といふのは、つまり世界中の人はイギリスの麾下に馳せ參するるのであるが、日本の麾下に參するものはないのであります。ただシヤムだけが缺席するといふ形式で所謂日本に味方したのであります。まだ日本は力が足りないのであります。力が足りないといふことは一方から云へば、日本は世界的多くのことをなしてゐないといふことでなからうか。今日の文明の利器といふものも多くを日本が作り出したかどうか。多くは西洋人から習うたものである。汽車に

しても、紡績機械にしても、印刷機械にしても、皆習うたのです。が、日本のために世界中のものが幸福を得たといふことをしないのである。これは我々は大いに反省しなければならぬのであります。ただ國の兵隊が強いといふばかりで、世界に覇をなすわけにゆかないのです。むろん今日は日本の軍隊は世界一である。陸軍はドイツ・フランスに習うてドイツ・フランス以上になり、海軍はイギリスに習うてイギリス以上になつた。そして日本獨特の陸海軍をもつてをる。それが日本の誇であるが、しかしその陸海軍の力だけで世界の舞臺に立つことは出来ないであります。そこいふともう一つ偉大な力の動がなければならぬ。それは何か。我々日本民族が持つてをる最も大切な魂であります。所謂大和魂であります。この大和魂の發揮において、はじめて世界を救ふことが出来、同時に世界において一大調和の統一者となることが出来るのであります。

さういふ點で私共大和民族は責任が重いのであります。私はこの頃つくづくよい時に生れたなと思ひます。よい時代に生れ値うたと思ひます。この全世界の運命を開

くのは日本人の手にあります。天は我々日本人に世界の苦惱を救ふ任務を與へられたのであります。これはお互に喜ばねばならぬのです。世界を救ふものは日本より外にないのであります。我々は滿洲の王道の國家の建設を助けるといふことは、戦争によつて他國を征服するといふのでない。この大和魂の普及を全世界にはかるといふ一步の踏み出しであるといふことを信するのであります。ところが、この尊い大和魂を持つてをる日本人の中に、世の中の救を望む高潔な心を持ちながら、淺薄な物質主義の上に基礎づけられてをる共産主義のやうな思想によつて、この世界を救はうと考へる人があるやうであります。もう一步私共は進んで、本當の救を發見しなければならぬのであります。それはわが大和魂の自覺であります。人間の救は物によつて來されません。魂の力によつて來されるのであります。

我々の幸福は外にあるのではない。内から開くのであります。我々は自分の心の暗闇から暗い世界を建てます。自分の心が明るくなるときに、明い世界は開いてきます。我が物質的の機械的の人生を考へるときに、所謂行詰りがあるのであります。この頃

私は日本のいろいろの人の話を聞いてをると、おもしろいことを云うてをります。政治上の行詰り、経済上の行詰り、思想上の行詰り、何々の行詰りと、いろいろのことに行詰つてをる。鳥に糞づまりといふことがあるが、人間にもさういふことがあるのかしらん。私に行詰つたことがない。だから日本の思想上にも経済上にも行詰りはない。日本に百億の負債があつても、それは行詰りでない。また日本に失業者があつても行詰りでない。それは廻轉の動機です。それを行詰りと思つてをるから詰つてをるのだ。轉んで行詰つたと思つてをるものがある。あまり悲觀しすぎる。世の中を建替へねばならぬというておどしてをるものがある。そしてどうするのか。世の中は詰つてをるから建替へねばならぬといふが建替へせんでもよいのになつてをる。昔から出てをる。建替をせねばならぬと思つてをるものだけが建替へねばならぬのでなからうか。世の中は開けてをる。大和魂とは明い精神である。大和魂には行詰りはないのです。敵を持つてをるものは問へてをるが、敵を持たぬものは問がないのです。どこまでも開かれてをるのです。

先日ハワイで聞いた愉快な話がある。ハワイには支那人が随分をる。二萬五千をる。日本人より先にハワイに渡つてをつて、経済力がある。日本人は十四萬人をるがあまり経済力は豊かでない。日本人は儲かつた金を國に送るが、支那人は送らぬ。持つてをる。だから支那人は富の力がある。日本人も國へ金を送らねばよいのです。私はあちらの人に送るなと云うた。日本では金を送つてもらつて遊んでをるものがあるから、そんなものに送らんでもよい。それぢやどうするのですか。日本に金を送るやうな精神は駄目である。どんどんここで發展なさい。あんたはさういはれるけれど、國を出る時縣廳の役人が、君等少しでも金があつたら國元へ送れと云はれた、だから送るのです、と云うた人がある。それで日本人は貧乏なのである。支那人は銀行など建ててをる。土地の買へるやうなところがあつても、日本人はお金を持つてゐないから買へぬ。この頃は爲替の相場がよいから、二千弗持つて日本に歸れば日本の壹萬圓になる。だからよい隠居が出来ます。さういふことをいふ人があるからいけないのである。隠居する位ならそれを持つて死ねばよい。人間は隠居するほど馬鹿なことではない。隠居

するのがよければ死ぬ方がよい。働くことがいやなら、食ふことがいやなら死んだ方がよい。むしろ入歯だからうまいものでも固いものを永くかんでをると顎が痛くなるから一層食はん方がよいと思ふことがあります。隠居したければさつさと手つとり早く死ぬがよい。犀川へでもどぶんと入ればよい。かういふことをいひますから、私の知つた人に身投をする人があつた場合に、あなたがああいふことを云ふから死んだのだといはれることがあります。生きてをりたいものは生きてをればよいが、死んでをるか生きてをるかわからんやうなものは死んだらよい。私らびちびち生きてをるものがほしい。大和魂はそれである。さういふ點で今頃では大分日本人が發展してをる。そこから開けてきます。

ところが支那人はおもしろい。満洲問題が起る前から排日運動抗日運動をやつてをつた。或大きな支那人の店に日本人を傭うてをつたのを、戦争が始まるとそれを皆解傭した。それから支那人は日本人と取引をせぬやうにした。これは支那人としては變つたことである。支那人は算盤高いのですが、さういふことをやる。これはカウイ島

のハナベベといふところの料理屋の主人の話であつた。支那の料理屋がたくさん日本人のものになつてをる。ホノルルの支那人の料理屋でも日本人のものになつてをるといふ。それだけ日本人が發展したのである。そのハナベベの料理屋は支那人から椎茸を買うてをつた。満洲問題の始まつた頃から賣つてくれぬ。それで日本人の間屋から取るやうにしたら、以前よりは安く買へるやうになつた。椎茸や筍の罐詰やは皆日本からくるのである。だから支那人から買ふよりも日本人の間屋から買ふのが安いのである。支那人は日本人を排斥するが、日本人は支那人を排斥しない。満洲問題の起つてをる最中でも、支那人は日本の内地でどんどん太鼓を叩いて、油くさい支那そばを賣つてあるいてをる。日本人はあれを買うてをる。私は日本人の國民性を大變よいと思ふのは、支那人でもイタリー人でも、到るところに支那町を作り、イタリー町を作る。神戸に行つても、長崎に行つても、横濱に行つても、ロンドンに行つても支那町がある。ベルリンにも、パリにもある。各戸にはあの赤い紅唐紙を貼つてをるのが眼につく。ところが世界のどこへ行つても日本町はない。それが日本人の精神の廣いところ

ろである。日本町を持たぬといふことは、世界中が日本町であるといふことである。日本人には小さい愛國心はないのです。近頃は愛國心というて、支那を敵にし、アメリカを敵にする愛國心があるが、私らの愛國心は相手がないのです。私らの日本の國の中には、アメリカもあり、支那もあるのです。いつも私が云ふが、今度もハワイで云うてきた。ハワイも日本のハワイ縣、アメリカも日本のアメリカ縣、世界中が皆日本の國である。別にそれを支配せんでもよい。太陽のしろしめす處はみな大日本の中なのであります。名義はどうなつてをしても大した變りはありません。實質があれはよい。私らさう思うてをる。イギリスのイングランド銀行の金もわしのものである。アメリカのナショナルバンクの金もわがものである。そんなことをいうて君使へるか。どつちにしたつてさうたくさん使へぬ。懐に入るかというてもさうたくさん入らぬ。三四萬の紙幣でもポケットには入れかねる。先度ハワイの歸りにもらつてきたお禮を四五千圓札で持つてをつた。それが邪魔になつたから直ぐに銀行に預けた。金を使ふというてもさう一度に使へぬ。イングランド銀行の金もナショナルバンクの金

も日本銀行の金も皆わしのもと思ふ。要るときには何時でも使へるのである。外の者の使ふのは、つまり私に代つて彼等が使うてくれるのである。わしのために飯を食うたり、わしのために着物を着たりするのである。だからみなさんが今日ここにわしの話を書いてくれるのも私に代つて聞いてくれるのである。今日までは日本銀行の金を使うてをられたからわしの話を書くことが出来たのだ。それ以上金を懐に持つて何になる。日本銀行においておけばよい。それを窮屈に自分の名義にせねばならんといふやうな狭い根性のものがをるのだ。さういふ小さい腹をもつてをるから窮屈な生活をせねばならないのであります。權利だ義務だというて、さう窮屈に思はんでをればよい。普通人は、人間とは五尺何寸の肉體を思ひ、日本とは地圖の上に現はれてをるこれだけと思つてをる。私ら地球上のすべてが日本だと思つてをる。日本は太陽の國である。だから太陽の輝くところは皆日本だと思ふ。太陽の輝くところにをれば、俺の親爺がをるぞと思ふ。だから取るも取られるもない。その點で滿洲を承認するといふことは俺の國がそこにあるといふことである。別家というてもよい。だから樂なも

のである。だから世界中日本の國だと思つて、大道を濶歩してをる。若しさうでないといふなら向うがどうかしてをるのだ。それが大和魂である。大和魂は世界中を調和し、世界中の者と融合うてゆく、その精神である。日本人は日本町を作らぬ。支那人のやうに抗日運動はせぬ。支那と戦をしてをつても支那蕎麥を買ふ。もつと極端になると敵に爆彈の材を賣つたりするものさへある。しかしこれは開けすぎたのである。大和魂は鷹揚な寛大さがある。惡むものもあつてもよいが、それをまたさうしておくといふことが日本の偉いところである。それだけ大きく太つ腹なところがあつてもよい。太つ腹はありすぎてもよい。しかしさういふ人がちよつと自分の懐に金を入れるためにやるからいかんのだ。もつと大きい魂に目覺めねばならんと思ふ。さういふ點でハワイにをる人に小さい國にをると思はんで、アメリカ全土に進出し、そしてアメリカをして日本たらしめるといふやうに目覺めてほしい。アメリカをして日本たらしめるといふと、何か日本が占領するといふやうに思はれるが、占領の意味とちがふのであります。

この頃日米戦争といふことを云々されるが、ハワイにおいても學校などでそれが問題になつてをる。學校の先生が日系人の生徒に、お前ら日米戦争が起るとどちらにくかと聞く。日本につくといふ子供と、アメリカにつくといふ子供とある。がアメリカにつくといふと親に叱られる、日本につくといふと先生に怒られる。それでどつちにしたらよいか、とよく聞かれました。さういふことを若し先生から問はれたら今自分子供だからどちらへもつけぬが、大人になったら私どもの力で日米戦争など起らぬやうにしますと答へたらよからうと話したことであります。わしらの日本はアメリカと戦争はせぬ。またわしらのアメリカは日本と戦争はせぬ。その確信でをる。それでも日米戦争が起つたらどうする。それは目先の考である。もつと進んで、我々の精神は日米が提携してゆく、日本がアメリカ、アメリカが日本といふやうに、打融けた大日本、それを建設する、そこに諸君の任務があるといふことを、私は至るところで話してきたのであります。多少さうしたことには諒解を得たことと私は信じてをります。これはひとりハワイの人ばかりでない。日本内地にをる人にも、それを熱望する念に

堪へないのであります。

我々日本民族は世界的に偉大な仕事をする任務を承けてをります。その中に私共はさうした仕事の一先鋒たらんとして働きうることの愉快さを感ずるときに、私は實に喜をもつて話した。ハワイでは百回ばかり、夜から晝、晝から夜とぶつ通しに話した。さうするとどうして疲れぬかと云はれる。こんなに愉快なことをしてをるから疲れぬ。學校の先生や官吏などは一週間たつと休みがほしくなる。それは疲れるからだ。あれは本當の仕事をしてをらんから疲れるのではなからうか。本當の仕事をしてをるものは休みがいらんだ。日曜のほしものは仕事をしてをらんのだ。本當の仕事をしてをるものは、仕事をするのが、魚釣りより芝居より面白くなければならんのである。だから私は現在の組織をするならば、官吏にも先生にも休暇日をやらぬ。無休暇にする。休日なしに毎日面白く仕事をするやうにする。さういふ社會を私は欲する。私は仕事に愉快だから休日が要らない。それで毎日休日であり、毎日が遊びである。毎日がおもしろい。皆さんは商ひをしたり田圃をしたりすることが面白いでせう。その外にまだ遊びがほしいのですか。人間は面白いことをやる、本當に自分が打込まれる仕事をやるといふことは愉快なことである。日本が世界を負うて立つ任務を果してゆく。その一つの分前を持たしてもらつてをると思ふと私共は非常に愉快であります。さうして命の限り働くといふ氣が致します。

私が今度三月ハワイにをる間にたくさんの方が死にました。私はこの頃人の死んだことを聞くと、殊に自分の友達の死んだのを聞きますと、自分も死ぬのだと思ひます。そして死ぬのだと思ふと力が出来ます。或人が、自分も死ぬのだ、子供も死ぬのだ、かう思ふと世の中に生きてをる甲斐がないやうに思ふと云ひます。私はこんな人を馬鹿な人だと思ひます。さういふ人が世の中に働いた果報を望んでをる人である。私達は果報よりも働くことそれ自身が愉快である。だから人が死んだら俺も死なねばならん、一生懸命に働かねばならぬ、と思ふのであります。人の死を聞いて、人生は詰らぬから自分も死にたいと思ふのは、何か働きに對する結果を豫想してをるのであります。こんな働いてゐても死んでしまつては結果が見られぬからつまらぬといふ

考であります。私達はいつまでも死なぬ。友達が死んだ、よし俺も命がないぞ、やらにやならぬ。この大きい理想のもとに永遠の世界にゆく。これが私共の信ずる無量の壽に進む道であります。

第二講

——昭和八年五月二日夜——

ハワイでいろいろのことを見聞したことの一つに西洋人と我々日本人との心持の相異してをるといふことについての一つの事柄があるのであります。それは最近にあつた二つの話によつてわかるのであります。近來不景氣の風はハワイにも吹いてをります。しかし、ハワイは不景氣だといつても失業者といふものををるのはホノルルだけであります。これは妙ですな。日本でも失業者はをります。都會には失業者、或は他からの救助を要するといふ貧困者がをるのであります。田舎には少いのであります。都會には餘程物のあり餘つてをる人があると同時に、極端に物の缺乏してをる人が集つてをるやうであります。これはどこに行つてもさうであります。ハワイ全島でも、外の處ちやまだ政府の補助を要するやうな貧困者はないさうであります。あつてもそれぞれ機械によつて保護されてをるやうであります。ホノルルだけは失業者があるやうであります。それで、失業者保護のために公園の手入れがせられてをるのであります。職のない人を傭うて公園の手入れをさせるのださうであります。樂な仕事ださ

うですが、その傭ひ賃が、獨身者は一週間に三日仕事してもらへる。そしてその一日の給料が一弗であります。一弗はこの頃の爲替にすると日本の四圓になります。私の行つてをつた頃は日本の五圓であります。つまり失業救済の仕事の一日の賃銀が五圓であります。それを一週間に三日もらへるのであります。ではそれくらゐの給金をもらつて食物の値段はといふと、日本から行つてをるやうな人は皆米を食うてをります。米は白米になつたのが三斗俵になつて、カリフォルニアからメリケン袋に入つてくる。その三斗俵一俵が三弗位であります。つまり日本金の拾五圓であります。ですから一斗五圓であります。一日五合食べる人ならば貳拾五錢です。七日で壹圓七拾五錢だけ米を食へばよいわけです。それに副食物に少しお金が要る。そこへ拾五圓といふ金が入る。相當に贅澤に食へます。ですからホノルルの失業者は一週に拾五圓取つて暮してをる。日本の労働者より割がよいのであります。

それから細君があり、子供のある失業者には労働賃銀が一日二弗であります。それが一週間四日の仕事してもらへる。ですから一週間八弗もらへるわけです。一週間四拾

圓です。ですから一月百六拾圓の金が入る。ですからハワイの失業者は日本の高等官とまではいかんでも、百圓以上の月給が入る。大分事が違ふのであります。

ともかくハワイでは極く田舎の村まで私は廻りました。田舎に行きますと寢臺の数が尠い。一緒に行つた息子とはじめて一つ寢床で寢たことがあります。夜分便所にゆくのに、そこでやつてくるのです。その邊の女は自分で産婆をする。それ位のところでは話をしてきたのであります。こつちのやうにお賽錢を集めます。皆お賽錢を上げる。一番少いがの十セント、それは日本金の五拾錢である。それから二十セント、ちよつと豊かな人は一弗即ち五圓も上げる。金澤あたりと違ふ。金澤のお寺などでは五錢上げるものが少いと思ふ。大抵はあの酒に酔うた錢を上げる。それだけ金といふもの程度が違うてをります。これはちよつと話が横にそれましたが、さういふ具合に失業者の保護がされてをるのであります。

日本の人で大工をしてをる人が失業しました。大工は普通の賃銀が一日四弗です。貳拾圓です。ですからかういふやうになると大工をしてをつても、一月に六百圓あた

ります。さういふところにもやはり不景氣があるのです。ですからホノルルに行つて失業者になつても、日本などは生活の程度が高いのです。その大工さんは失業して仕事をもらひに行つた。役人が、君は獨身ものか細君があるか。あります。子供があるか。二人半あります。半とはどういふのか。妊娠中です。君はその子供を墮してしまへ。と役人が云うた。大工さんはびつくりして、どうしてですか。と聞いた。君は自分でさへ食へぬぎまで、さうたくさん子供を生んでどうする。不届だ。その子を墮しなさい。さういふわけにゆきません。わざわざ縁があつて宿つたものを、さういふわけにゆきません。是非墮せ。それぢや家内に相談します。というて細君に相談した。細君はいやだといふ。どうしても生むといふ。かはいさうだといふ。ぢやから日本人人は偉いのです。日本では昔は關東の方では間引というて墮した。いらん子を墮した。ところが、石川縣とか廣島縣とか、眞宗の盛なところにはそれがなかつたさうです。ハワイは眞宗の盛な廣島縣・山口縣・福岡縣・熊本縣などからたくさん行つてをる。それらの人は子を墮すことは慘酷なことだと思つてようしない。さういふ關係で昨晚も

申しましたやうに、ハワイの日本人はほとんどんふえるのです。そのふえてゆくために投票權が多くなるのであります。ぞくぞくふえるものですから日系人が縣會議員に六人もなつてをる。もう十年もたつと日本人の議員が半數になるといふ。さうするとハワイはアメリカの縣でありながら、日本人の手で治めることになるのです。それをアメリカ本國の白人が怖れてをるのです。それは根本を云へば、日本の女は子供を生むことが好きだといふことである。子供を墮さないといふことに原因するのである。

そこで話は元にもどりますが、その大工さんは細君に相談したら墮さないといふ。仕事はもらへんでもこの子は生みますといふ。それで役人にその通り斷つた。役人は強ひてとは云はんでやはり四日の仕事をくれたさうです。日本から行つた人に聞くと随分驚くやうなことがあるさうです。政府の官吏が公然と墮胎を奨める。かういふやうな道徳思想がありますから、この頃は日本にも少しは云はれてをります。産兒制限といふやうなことを試みる人が相當に多いさうです。またそれがために男女間の道徳といふことに、いろいろ穢れを多くしてをるといふことも意味してをります。ともか

く日本人はよく子を生みます。そこに日本人の強みがあります。これに對して白人はどうかといふのに、白人の女には子を生むことを嫌ふものが多いさうです。まあフランスの如きは子を生まないからだんだん人口が減つてゆく。それで政府では子供を三人生んだら扶持をくれる、四人生んだらそれ以上してくれるといふ法律をこしらへてをる。それでも人口が減つてゆく。それは女が子供を生むことを嫌ふからであります。男でも女でも、子供を持つことを嫌ふといふことはどういふことだといふに、自分の生活の便利を考へるからです。これは極端な個人主義である。西洋の女などは、子供を生むと身體に艶がなくなる。子供を生むと皺がよるといふ。日本でもいふ子供を一人生むと皺がふえるといふ。皺のよるのがいやなら子供を生まんことだといふ。さういふことで女は避妊する。男もさういふことを欲する。それは不斷の歡樂を欲するためである。一人増せば水増す。」といふ。子供が多くなると足手まとひになる。それで子供を多く持たんといふことになる。日本から行つてをる人でも、今日老人になつて、地主の建てた慈善病院に養はれてをる人があります。さういふ人は多く獨身の男でありま

す。そして子供がないのであります。子供のない人の暮しは相當に悲惨であります。そしてそれらの今悲惨な境涯にをる人は、全盛時代には随分贅澤をした人でありま。若い間に妻子を持った人は、それがために金錢を要するので、相當につつましい日暮をしてをります。それらの係累をもたない人は、持った程の金を湯水のやうに使ひ果します。いよいよ老後になると誰も相手にしない。それで社會のお世話になるといふやうに、随分かはいさうな日暮をしてをるのが多いのであります。これはやはり子供のないといふところからくる淋しさだらうと思ひます。勿論自分に子供のない人でも、自分の個人の歡樂といふことでなしに、自分の所得を公のために、公衆のために費さうといふやうな生活者ならば、老後にもあはれな境涯になるといふことは決してないのであります。がさうでなしに、若いときに非常な贅澤をして、自分一人が贅澤をするために、妻を持たず、子供を持つことを欲しなんだ人は、老後に相當の罰を受けるのであります。妻を持つて、子供をたくさん持った人で、慈善病院に入つてをる人を殆ど見受けなかつたのであります。妙な現象です。子供を生むと費用が多く要る。そ

れはさうです。しかし慈善病院に入るやうなことはない。そこらにもやはり近代的の個人主義の上に課せられる刑罰、天然の罰といふことを私は感するのであります。殊に痛快な話を聞きました。所謂天罰といふことであります。ハワイ島の或處に大地主があつた。やはりアングロサクソンです。數十萬の金持であります。その人は夫婦の間に子供がなかつた。なかつたのでない。作らなかつたのです。避妊したので。懐妊したときは墮胎した。近所の人の知つてをる話では、三人は墮胎した。四人目の墮胎のとき薬のために死んだ。日本から行つた人はあれは天罰だというてをつたさうです。間もなく本土から若い細君をもらつた。金にあかして贅澤をした。その細君は二遍妊娠したが、二遍とも墮胎した。さうかうしてをるうちにアメリカの本國から火山を見物に來た友人があつた。ハワイは火山國です。ハワイ島などは火山のラバによつてなつてをる島であります。その煙を吹いてをる岩の廻りを歩いて見物するので。さうした見物人の泊る火山ホテルもあります。その火山見物に來た友人と交際した。すべてと申しませんが、西洋人は博奕をすることが好きである。支那人もちよつと寄

ると直ぐ博奕をやる。何でも賭けごとをすることが好きである。日本人は一番博奕根性がないさうです。その點で日本人は餘程世界的に優秀なところを持つてをるといふことが出来ます。さすがは、印度の佛教も、支那の儒教も、世界のどこにもなくなつても、日本においてそれを持つてをるといふ國柄ほどあります。昔は東方の君子國ゆきたいと支那人から云はれたほど、日本にはその徳があるのです。たしかに君子國である。日本人でありながら、日本人の悪いことばかり考へてをる人がありますが、それはその人が悪いのではないかと思ひます。私は日本人は世界中で優秀な人類だと思つてをります。そして正直であります。勤勉であります。むろん日本人の中にも正直でない人もあります。勤勉でない人もあります。が、西洋人に比べて偉いやうでありま。す。むろんその外の人種に比べて偉いのです。西洋人でも偉い人はあるが、博奕の好きな人が多いやうであります。その博奕の好きな見物に來た人が主人と博奕した。そして主人は三十萬か四十萬損した。ところが細君はその勝つた方の男と一緒になつて本國へ逃げて行つた。妙ですね。ハワイの男は、金は取られたわ、女房は取られた

わ、吹雪倒れに水、泣き面に蜂である。アメリカ本國から若い女が來たのは人格を慕うて來たのでない。金があるから來たのである。だから子供を生みたくない。せいぜい贅澤をしたいといふ心であります。ところが金を儲けた男の方に行つた。金に引かれてきたものは、また金に引かれてゆくのがあたりまへである。だから金のあるところに行く。人間の血の通うた世界に住まないで、ただ機械的に個人の快樂といふものを追うてをれば金本位であります。金あるが故に嫁に來た人なら、金がなくなれば金のいつたところを追うてゆくのはあたりまへである。金があるために女を引きつけた人なら、金と共に女を向うに取られるのであります。さういふ時になるほどさうだつたなと思ふのは、わかから思ふことであつて、始からさういふことはない。その人は氣狂のやうになつたさうです。氣が狂うたさうです。で小作をしてをる日本人の細君などが小作料を持つて行くと氣狂じみた處作をしたさうです。しまひには誰も側あたりへよらなくなつたさうです。さうして一兩年するうちに悶えつつ狂ひ死にしたさうです。その近所の人達はよい罰だと云うてをつたさうです。資産は相續人がないので

政府に沒收せられたといふ。かういふことがあります。これは極端な例であります。あまり個人の快樂を追うてをるやうな人は、かうした極端な悲惨事を惹起するのであります。

ヨーロッパ人は我々からみると生活費が随分いるのであります。高級の生活をするとも云ひませうか。しかし、彼等は精神生活といふものになると、それは全體と云ひませんが、我々日本人からみると實に淺薄なものであります。物質的であります。機械的であります。個人主義的であります。そこいふと日本人は非常に同情があります。融和があります。殊にこれは先年アメリカに行つたときも感じたのですが、今度ハワイに行つてもまことにその感が深かつたのであります。教育のない労働者達の人情にあつといふことですか。ヨーロッパでもベルリン・パリなどには日本人が五百ほどをります。ロンドンはもつとをります。私が遺憾に思つたのは、パリやベルリンなどにをる日本人は、寄ると觸ると日本人同志の罵倒をやるのです。どうもその間の仲がよい。何か我々が聞くことがいやなやうな罵倒を聞きます。なぜさういふこ

とになるかといふと、ベルリンやパリに行つてをる人は相當に教育のある人か、資産のある人である。文部省の留學生或は陸海軍の視察員或は貿易商の出張員か、日本から相當に金をもらつて行つてをる人である。皆えらい人である。皆背景のある人である。まあ一步もゆづらない、互に自分の俸給といふものを基礎にして自分勝手の暮をする、人を助けようとしなければ、人に助けられようもしない。だから互に親しみ合ふといふことがない。親しみ合ふといへば、俱樂部で一緒に遊ぶとか、一緒に酒を飲むとかいふやうなもので、「親は泣き寄り」といふやうなものでない。そこいふと相當に個人財産を持つてをるものが却つて人間と親しみがなくなるのでないかと思ふ。家庭でも貧乏人の家庭が仲がよくて、金持の家庭は仲が悪い。例へば少し金を持つて大きい家に住んでをるものは喧嘩しても自分自分の部屋に閉ぢこもつて他と觸れ合はんでもよいから、いつまでも腹立ちを持つてをられる。貧乏人などは顔を見られたくないと思つても家が狭いから見すにをられぬ。身上がよくて広い家にをるものは三日でも見すにをられる。傷でも生々しいうちは癒え合ふが日がたつとなかなか癒え

合はぬ。この頃は財産でも、親の財産、子の財産、夫の財産、妻の財産と分けてをる。ああいふことはあんまり感心せぬ。個人々々の財産を持つてをるといふことは、少くとも家庭なら家庭が分れ分れになる所以だと思ふ。やはり人間の生活はあまり個人個人が籠城するといふことなしに、互に話合つて手を取り合つてゆくといふやうにあらしめたいものであります。けれどもさういふことは物質の上で決めるべきことでなしに所謂魂の和であります。一つに合うたものであります。それが味はれにやならんのであります。だから個人的自由財産といふものも便利なものであります。それにくくられてはならんのであります。拘泥してはならんのであります。假りに所有權を定めてあつても、時々それが破られてゆくとところに、相通じ合うたものがなければならんのであります。極端な個人主義者にはそれがありません。助け合ひがなないのであります。

先年アメリカにまゐりました時、アメリカのカリフォルニアは日本からたくさん行つてをります。それらの人は相當に助け合ひをする。パリやベルリンにをる日本人

よりカルフォルニアに在る日本人の方は教育がないのです。主として田舎から丸裸で来た人が多いのです。今日でもやはり労働をして在るさういふ人が相互扶助で互に助け合つて在る。それをみて私は非常に無教育者の尊さを思つたのであります。そして故郷から金をもらつて食つて在るものより、自分の腕で働いて在る人が本當に尊いなと思つた。同情心がある。殊に今度ハワイに行つて津々浦々の田舎まで廻つてみましたに、實にその互の間は親密であります。それはさうでせう。故郷を離れて遠く異域に行つて在る。働いて在る間は西洋人のところに傭はれるのだ。ゴーヘーゴーヘーという鞭を持つて後から追ひかけられ、黍畠で働かされたさうです。ですから日本人同志は互に助け合つてきた。今でもさうである。どうもハワイに在ると交際に疲れる。誰かが病氣だ、お見舞、死んだ、香奠、國に歸る、餞別だといふやうに要る。ハワイに五年十年暮して日本に歸らうと思ふと旅費はいらんさうです。皆餞別を持つてくる。餞別で船賃は充分あるといふことである。先度交際疲れたから餞別は止めにやならんといふ人があつた。私はそれを止めた時に大和魂の没落があるのでないかと云うて

をつたのです。そこによいところがあるのです。人の難を救ふその情緒にあつたのであります。同縣人だといふと顔の知らん人でも皆が寄つて親切にする。さういふのを利用して、日本内地から日本人の慰問にきたというてたくさんの寄附を集めてゆく人があるさうです。これらはたちの悪い人である。故郷から空手で来た人はつらいといふことを知つて在る、それで互に助け合ふのです。さういふところをみて私は、今日の大學教育を受けた人より、無教育の人がよりよく大和魂が躍り出て在るといふやうなことも味ひました。却つて西洋風な大學教育を受けた人より、無教育の人が人情味が厚いのです。これは私は常に内地においてもみること、普通の意味からいへば學校を出た人は修身の教育を受け、智慧も勝れて在るから人情味も厚かるべきであります。が、どうも大學など出た人は情味のない人が多い。却つて無教育の人に人情味がある。さういふところをみますと、今日の教育は知育に勝れたところはあるが、徳育の方面に、一面缺けて在るのでなからうかと思ひます。却つてそれがために智慧が悪用せられます。教育のない者より教育のある者の方がお粗末な心的生活をして在るので

ないかと思ひます。教育のある人は社會の上流に暮して、比較的物質に贅澤な暮らしをしてをる。それが出来るといふことそのことが相互扶助の美しい魂の打融けを持たない點であるまいかと思ひます。その點で近代的個人主義の教育といふものについて、切り込んで反省を促さねばならんと思ふのであります。

ともかく今ハワイにをる人、殊に昔の契約移民として渡つた人達には、非常に人情味の厚いところがある。私共の泣かされるやうなよいところがあります。かういふことは内地にをる我々が相當に味はねばならんところです。「親は泣き寄り」といふことがある。泣き寄りであります。さうして泣き寄つたところには笑うて喜を分つてをるところよりも、もつと廣々したあつたかい人生があるといふことを考へるのであります。あまり景氣が善過ぎて、互にものに酔うてをる時代よりも、外的に景氣が悪くなつて、内面的に人の心が打融けてゆくといふときに、もつと本當の廣々した世界が開かれてゆくのがやないかと思ひます。さういふことを思ひますと、あまり好景氣に酔うてをる時代よりも、今日所謂不況時代においてこそ、我々人間の精神的に生きて

ゆく尊い機縁を與へられてをるのぢやあるまいかとさへ思ふのであります。私はハワイのこの無教育な人達のこの純朴な相互扶助の精神にふれて、非常に尊いことを感じたのであります。

ハワイで生れた子供はすべてアメリカの市民であります。それでアメリカの方で建てをる国立學校に入學するやうになつてをります。アメリカ本國の方では小學校は八年でありますが、ハワイは特別の事情で六年になつてをります。アメリカの本國では八年の小學校がすみますと、その上の五年のハイスクールに入ります。それがすむと大學に這入ります。ハワイは六年の小學校がすむと、ジュニヤハイスクールに這入ります。これは三年制の學校です。その上にシニヤハイスクールがあります。これは四年制の學校であります。それから大學に這入るのであります。ハワイの義務教育は六年であります。すべて英語で育てるのであります。官廳でも學校でも英語でやるのですから、自然と英語が子供の通用語になつてくるのであります。まあ英語と申しましてもハワイにをる日本人の英語は、イギリスの英語、アメリカ本國の英語とは大分

ちがひます。ですから英語を日本で勉強して、ハワイで聞くとわからんことが多いのであります。ハワイの人は本當のイギリスの英語はわからないのであります。例へばギオルさんといふ。何のことだといふと、ガールのことである。コーヒーのことをカツペといふ。助けるといふヘルプスをヘルツプスといふ。ですから向うにをる日本人の英語は相當に疑問である。ともかく子供は英語で話す。小學校に行くまでの子供は兩親は日本語を使つてゐるからそれを真似てをる。二十年も三十年もあつちにをる日本人などは、Good morning, How do you do? などは知つてをるが、殆ど英語はわからない。子供はだんだん英語で話すやうになる。小學校から中學校に行くやうになると、子供の話がさつぱり親はわからぬ。子供同志が話してをつてもわからぬ。家の兄弟同志が話をしてをるのが親はちつともわからぬ。それはまた親として淋しいことである。

或お医者さんですが、アメリカで生れた子だからアメリカの言葉を知つてをればよい、日本語などどうでもよいと思つて、日本語をちよつとも教へなかつた。ところがだんだん年をとつて向うの大學に出るやうになつた。お母さんに手紙を出せぬ。英語なら書けるが日本語で書けぬ。だからお母さんに手紙を上げてもお母さんは讀めぬ。親子の手紙に通譯が要る。親子で話すに通譯が要る。さうなると不便である。主人が亡くなられてお母さんは或ところにをられた。子供達は大學を出たがお母さんと手紙の往復が出来ぬ。まあ親が一生懸命に子供に頼んで、子供に日本語を勉強して貰つて、漸く子供がお母さんのところに假名書きで手紙をよこされるやうになつたといふことである。これが日本語を教へなかつた親の歎の例として話されたのであります。

さういふことがありますので、一番最初に西本願寺において日本語の教育をしたのです。これはまあハワイの日本人教育としては非常な先鞭をつけたものです。親達にとつては非常な喜びです。お寺で日本語を教へる。それから後にはそれが盛になつたものですから、本願寺の手を離れて獨立で建てたものもある。その時は寺から學校が獨立するについて相當に争があつたさうです。随分ハワイは争の多いところですが、これもハワイの状況の一つです。

日本人學校が建つた。向うの義務教育の學校は一週間に五日授業がある。土曜日と日曜日とは休みである。だから向うの學校の先生は樂である。一週間に五日働いて二日休みである。その時間を利用して、毎日放課後一時間、土曜日の午前、これだけの時間に日本語を教へるといふことを計畫したのです。相當に親達は喜んでその學校に子供をよこしてゐた。ところが五六年前アメリカの方で規則を立てた。日本語學校の存在を許さぬことになつた。非常な議論が出て、しまひにアメリカの大審院まで出て、たうとう日本人の申分が勝つたのです。そして日本語學校の存在はたしかめられた。大審院まで行つて通つた。まあ今ちや日本語學校はアメリカの法律の保證のもとに開かれることになつてをる。がそれをまた抑へるために——從來は日本語學校へ日本の文部省から教員を派遣してもらつた。ところがアメリカの政府ちや教員を入國させない移民法をこしらへた。アメリカへ自由に這入られるものは、僧侶と新聞記者と店員、これだけは許す。教員は這入られぬ。むろん店員とか新聞記者といふのも、餘程特別の會社といふやうなものでなければ入れないのです。僧侶の資格があると容易に這入

られる。また妙ですが、アメリカは宗教家を非常に大事にしてゐる。レベレントと名刺に書いておくと、どこへ行つても大事にする。船でも汽車でも割引がある。宿屋に行つても待遇が違ひます。お前は職業は何だ、と聞く。レベレント或はミニスタといふと、おうミニスタかといふ。あつちををる人に聞くと、わしはミニスタだといふと、自動車事件が起つても大抵よくして貰へるさうである。

アメリカはまた近來小學校でも中學校でも一週間に一遍は宗教教育を受けにやならん、かういふ法律が出た。學校では宗教教育はせぬ。しかし學生は一週間に一遍宗教教育を受けにやならぬ。佛教徒は佛教の寺で、キリスト教徒はキリスト教の寺で、かういふことが法律で決められてをる。さういふ點で日本とアメリカは稍趣を異にしてをる。日本も近來は、學校の先生の宗教を信することを獎勵する。生徒はなるべく神社參拜につれてゆくやうに、といふことを文部省がすすめてをる。しかし決つて一週間に一遍宗教教育を施せ、さういふものは出來てをらぬ。アメリカは出來てをる。これは日本などもちつと文部省が精神教育を眞面目に考へられるやうになり、また各宗、

殊に佛教の寺々、或は僧侶が日本の本當の精神教育の任務にあたるだけの自信があるといふことになれば、アメリカのやうな法律が出来るかもしれない。けれども見渡すところ、日本の佛教僧侶に果して國民の精神教育は俺がやる、といふだけの自信を持つてをる人がどれだけあるか疑問であります。ただその日その日の葬式をしたり、法事を勤めるといふ仕事だけに追はれてをるものが多い。もう一步進んでこの國民の精神教育をするといふ方面に當つてをる人が少いやうであります。聖徳太子がはじめて日本に佛教をお傳へになつた精神も、聖武天皇が諸國に國分寺を置かれた所以も、傳教大師弘法大師の御出世になつた所以も、法事佛事をするといふためになつた。國民精神を指導する、國民に文化的教養をするといふことが目的であつた。その點で僧侶といふものの任務は、國民に歸すべきところを教へるのである。日本などは大和魂を鼓吹するといふことが、寺々の僧侶の仕事である。ところが今日さういふやうな自信を持つてをる人は少いやうであります。だから文部省が宗教教育を受けにやならんといふ訓示をしても、容易にそれが實行出来ぬもしれぬ。だからさういふ點で云へば僧

侶の方でも自信を持つやうに、そして文部省の方でも精神教育といふことを一層重んずるやうになると、アメリカのやうな制度が出来たらうと思ふ。アメリカにはさういふ法律があるために寺へ子供が行くといふことを親達は非常に喜ぶのです。

日本語學校へ子供を入れるために親達は相當の費用が要るのです。大抵子供一人に一弗乃至二弗の授業料が要る。子供が二人出てをれば二弗半、三人出てをれば四弗、四人以上になれば三人の授業料といふことになつてをる。随分子供がをるので、五十軒ほどの村に百五十人の子供がをる處もある。だから大抵は一軒に三人はをる。この前も申しますやうに、ハワイの人は子を生む。當りまへに國立學校に出した以外に金が要る。國立學校は授業料はいらぬ。教科書も貸すのだ。アメリカは徹底してをる。衛生といふことも重んぜられる。晝飯も學校で食べさす。晝飯に五十セント持つてゆく。林檎なども與へる。だからあちらの子供は食事に注意する。ともかく相當に金もかかる。その上に日本人學校に金が要る。そのために親は相當に苦心する。子供の教育といふことについてハワイの人は非常に熱心であります。そして一年からずつと中

七〇
學校女學校——むろんハワイぢやハイスクールといふが、女も男も一緒である。それらの生徒が皆日本人學校にゆく。日本人學校にも中學校女學校がある。日本人學校は日本語を教へるのだから、本當は大和魂を教へるのであります。始は天皇陛下の御眞影をかざつて、教育勅語を拜讀したさうですが、それはひどいといふアメリカ政府の云分によつて、それは止めたといふことであります。親達はその日本人學校のために多大の費用を投じてをるのです。

ハワイの労働者達は子供の教育といふことに熱心であります。自分の食ひたいものを食はんでも子供を育てます。ですから今日ぢや高等の教育を受けたものがたくさんある。それはなぜか。彼等が廣島・山口・熊本・福岡あたりから移住した。そして白人から非常に虐待された。が今ぢや洋館に住んで、洋服を着てをる。到るところで私の握手する男女は皆堅い手をしてゐた。日本内地で握手するより堅い手をしてをる。私は云つた。あなた方は皆堅い手をしてをる、感心だと思ふ。私は握手して軟かい手をしてをるやうなものとはよくないと思ふ。遊んでをるものは手が軟かい。私は目が見

えんでもそれがわかる。握手すればわかる。手の軟かい人と握手するときこの奥さんは貧乏するなと思ふ。ともかくアメリカに渡つた第一世はよく働いたのです。

加賀の方から行つた人は殆どない。たくさんの中に大聖寺から行つた人に森といふ人があつた。これは大聖寺の人小栗海軍大將の兄弟だといふ。小川村から行つてをる人が一人あつた。廣島・熊本・福岡・山口の方面から行つてをる人が多い。それだけ眞宗が繁昌である。殊に眞宗のお西の門徒が多い。従つてお西の寺がたくさんある。これらの人達は故郷から出てきたままの無教育の人が多し。そして向うで随分白人から虐待された。それで彼等の頭には教育を受けにやならん、子供には教育をせにやならんといふことがしみ込んでゐるのです。するぶん白人の輕蔑の仕方がひどいのです。それで向うで育つた人は復讐的の感を受ける。これはこの頃日本と支那の問題が起つてをりますが、蔣介石は日本で學んだ人であるが、日本に反對する人である。抗日運動をしたり、日本に反對をする人は大抵日本の留學生だといひます。日本で學んだ人が支那に歸つて日本に反對をするといふ。それはなぜでせうか。彼等が日本で學んで

をる間に、日本人が何か支那人に對して輕蔑してをる。それが頭にしみ込んでをる。それでひとつ本國に歸つて偉いものになつてこの仕返しをしよう、と思ふ。日本に學んだからお禮をしようといふより、仕返しをしようといふ。かういふ心が起るのである。先日ホノルルでの松岡さんの話でありましたが、その話に、ポートランド大學に學んだ。その頃白人達から東洋人なるが故にというて壓迫された。自分が日本に歸つて大臣になつてかういふ人達を一番壓迫してやらうといふ氣があつた、といふことを話されました。さういふことを聞きますと、ゼネバの演説にそれが出てをります。それを聞いて日本人が胸がすくといふ氣がしたのは、鬱憤晴らしが出来るやうな氣がしたのでせう。壓迫されてをるから仕返しをしようといふ念が起るのです。ハワイの人にそれがあるから、それで一にも二にも子弟の教育をしようといふ氣があるのです。自分が教育がないためにいぢめられたから、子供を教育をしなければならんといふ。それで飲むものも飲まず、食物も食はんで教育をする。だから親は目に一丁字のないものでも息子は大學を出てをるものが多い。ハワイの人達は子供の學費を惜しまぬのであります。

この頃は子供を日本に學ばしめるか、アメリカに學ばしめるかといふことがハワイにおける日本人の間の問題になつてをる。一般の傾向は日本に學んだ方がよいといふ説が多く出てをる。日本人學校は毎日一時間位習うてもあまり覚えられんやうです。これは我々が中學校に入つて、毎日一時間か二時間英語を習うてきた。そして今はろくに喋舌れんといふやうな體たらくである。それと同じことがアメリカにおける日本語學校にいつてをる學生の上にも見えるのである。始めのうちはわからんから話をすると、素直でないのだ、何にも云へんのだ。私ら外國人と話をするとイエス、イエスといふが、云ひたいことがあつても云へんからイエスイエスといふのだ。聞くだけは聞くが云へんのです。小さい子供は英語なら喋舌り易いが、日本語は喋舌れぬ。手紙も英語の手紙なら書けるが、日本語の手紙は書けぬ。それでこの頃は日本語學校へやらねばならんというて、大分熱心である。就職口なども日本語學校に行つたものはよいとい

ふことである。日本語をやらなければ備はないといふ。これはまたおもしろい。それで日本語の勉強をするものが大分出来た。それが近來の一つの傾向である。

ハワイの日本人學校に行つてをる男の子は女の子より成績が悪い。女の子に優等生が多い。男はあまり出来ぬ。これはどういふものだらうね。これは一つの考へさせられることでありますが、私は日本の男の子の出来ないのは、男は世間的社交的であるから英語にゆく。女は家庭的であつて親の側にをるから、日本語學校に行つても早く上達するのではないかと思ひます。

もう一つは近來かういふ傾向がある。日本へ行つて日本をみてきた子供は非常に日本最負になるのです。しきりにこの頃は日本の見學といふことをやる。始め向うに出来た子供達は、日本といふ國は非常に粗末な野蠻國だと思つてゐた。なぜさうなのかといふと、その子供達の親は二十年三十年前に小さい船に乗つてきた。その頃の日本を知つてをる。ハワイはアメリカの支配下になつて、自動車が出来た。汽車が出来た。鉄筋コンクリートの家が出来た。さうすると日本にはこんなものはない。汽車もない、

飛行機もない。日本の船は小さい、と思つてゐる。日本も三十年後にはいろんなものが出てをるが昔のことしかしらんだ。だからその話を聞いて、それが日本だと子供も思つてをるのだ。だから日本はつまらん國だと思ふ。ところが一度日本に来て横濱を見、東京を見、京阪を見るとびっくりする。むろん日本の東京驛などはニューヨークかワシントンでなければならぬ。丸の内などはニューヨークより建物は低ければ、ロンドン・パリより新しいだけきれいである。さういふところをみると日本はえらいといふことになる。日本最負になる。女の子は日本に行つてくると嫁入り口が多いといふ。又、日本の女學校を出てくると嫁入り口がよいといふ。これは妙な現象である。これだけ日本の威光が盛になつてきたのでせう。向うでもお茶の湯、お花、お琴などの勉強が流行つてをります。さうした御師匠さんは相當にもてるのです。私はハワイでお茶のお手前に二ヶ所でよばれた。それから花なども時々活けてあるのをみた。ハワイにをる日本人の親達は非常に子弟の教育に精神を向けてをります。しかし、その方針といふことについてははつきりした自覺がないらしい。さういふ點において

私はいろいろ話したやうなことであります。アメリカに學ばせるか、或は日本に學ばせるか、かういふやうな問題について、私はいつも中心が大和魂の自覚であるといふことを申したのであります。本當の教育といふものは、金を費して學校にやるといふことでない。もつとそれ以外にあるといふやうなことを縷々話しました。

ハワイの現在の不景氣状態は非常に深刻であります。パイナップルは非常に安い。パイナップルの會社はほとんど潰れる。畑に植ゑてあるパイナップルも捨てておくといふことである。砂糖はさうでもない。近來少し値が出たから稍愁眉を開いてをる。しかし好況時代ほどでない。

日本人の中には収入を見越して月賦拂ひにものを買ふものが多い。一番ハワイを滅亡させるものは自動車である。百姓も買ふ、學校の先生も買ふ、商賣屋も二臺三臺と買ふ。自動車は下駄のやうなものである。道を歩いてをるものは少い。田舎でもさうである。夕方になるとホテルから十哩二十哩の向うの村から自動車で活動寫真を見に来る。活動寫真は實に繁昌である。榮當々々である。活動寫真は一時西洋ものが流

行つたさうであるが、近來は日本ものが流行る。老人の中には西洋ものを好むものがあるが、若いものは日本ものを好む。あの舊劇など好むといふことである。さういふことも滿洲問題・國際聯盟問題で、日本といふことの自覺が高まつたからでせう。活動寫真は流行るから、寫真館を持つてをる人は儲かるさうです。活動寫真の觀覽料は二十五セント日本金で壹圓、或は五十セント日本金で貳圓位です。子供は一週に一遍か二遍は見にゆく。自動車に乗つてゆくのです。さういふ状態であるからハワイでは頼母子講が流行る。それで収入の少ないものでも月賦拂ひで自動車など買ふのです。千圓の自動車を買ふと、一時に百圓拂うて、後は月賦拂である。ですから買うたその時から乗れる。ところが聞いてみると自動車を持つてをるものは一生涯自動車の掛金をしてをらにやならんさうです。もう掛金がすんだと思ふころ、またその自動車は壊れて次の自動車を買はにやならぬ。自動車倒れたというてをりながらまた止められんのです。また仕事をする人などは自動車が必要なければ出來んのです。大體さういふ風である。物を買ふのは大抵月賦である。月賦はちよつとみると樂なやうであるが、いくつもた

まると困る。頼母子講も流行るが、その掛金が集まらぬ。好況時代に出来た頼母子である、それがこの頃は物價が下つた。物價が下つたのに本の通りの金を掛けると損がいく。だから頼母子の掛金をしぶる。この頃はその掛金を出すのに困つてをるといふことでもあります。

爲替相場は元は日本の貳圓が向うの一弗であつた。ところが日本は金本位を止めてから日本の圓價がどんどん下つた。一弗が參圓五拾錢ほどになつたとき、ハワイにをるものは一弗が參圓五拾錢で替はる、といふので弗で日本に送つた。或者は頼母子を取つて送つたり、借りて送つたりした。ところが一弗が五圓までになつた。今度は頼母子の掛金を日本から取り寄せた金でかけるともとの一弗はもう一弗半までやらにやならぬ。一時は日本にも大分金が入つた。この頃はアメリカ政府は日本へ弗を出すことをさせぬ。あんまり日本へ送り過ぎたためにハワイの日本人は不景氣になつたのだ。あなた方は金を送りすぎたのだ。百姓が商賣違ひをしたから後になつて困るのだ。ハワイの人達が弗を賣つて圓を買つたとき、日本では三井の弗買ひ、住友の弗買ひの攻

撃で大騒ぎであつた。その頃ハワイの人達は弗賣をしたのだ。あなた方はどんなことをした。百姓は黍を作つてをればよいのだ。百姓が弗賣をしたりするから罰があたるのだ。と云うたらさうですと云うてをつた。

カワイ島で聞いた話があります。或人が頼母子の掛金が出来ぬといふので、でもお前の子供が自動車で活動を見に行くではないかというたら子供の活動を見に行くことはどうしてもやめられぬと云うたさうです。外の者がゆくからうちの子もやらにやなりません。頼母子をかけんでも子供をやらにやならぬ、外の子供が行くのに、うちの子供はやらんでおけぬ、といふのです。かういふ人は金澤あたりにもあるかもしれぬ。栗崎遊園地行の電車は満員である。私の家に栗崎を知らんものは私だけである。かうなると一生知らん方がよいと思ふ。ああいふもののあることは人達に苦しみを與へることになる。子供があこへ行くために親が苦しみにやならぬ。ああいふところは健康にもよくない。かういふことを云ふと株主が困るかしらんが、私はかういふ男である。ハワイなどでも子供がかはいからだと到るところでいふ。さういふのは子供をか

はいがるのでないといふことがわからんのだ。さういふことをやつてをるときに親は悪いことをしてをるのです。やらにやららん金をやらんで贅澤を子供に教へる。こそ泥根性を子供に教へる。子供に金をやつてこそ泥を教へる。さういふやうな教育をしてはだめです。本當にかはいければ、お前もあこの子供のやうに活動にやらにやららんがお父さんは義理のある金が要る、頼母子に金が要る。この頼母子の義務がすんだらやつてあげる、となぜその理由を云うて聞かさぬのだ。ここで子供は人間の義務を果さにや愉快に過せぬといふことがわかる。それを拂はにやらんものを拂はんで、子供が泣くからというて活動にやつてやるなどは、子供に不義理を教へてをるのである。さういふのは子供をかはいがつてをるのでなしに憎んでをるので。極端に云へば、親自身がどれが子供の幸福だといふことがわからんのだ。親自身のゆくべき道がわからんから、子供のゆくべき道がわからんのです。これは日本内地の人にも云ひたいことです。あんたは子供を持つたことがないから子供のかはいさがわからんのでせうとよく云ふ人がありますが、私から云へば、子供を持つた人は本當に子供のかはいさが

わからんのである。子供を持つ持たんに限らず、本當の道がわからんのである。子供の衛生といふことを考へたら子供に菓子をやらぬ方がよい。わからんなら仕方がないが、わかつたらやらんことだ。子供がいくら求めたにしろ、それが子供の害になるものならやらないところに本當の親の愛があるのである。天皇は人民を愛して下さる。人民を愛して下さるが故に我々が盗をするに懲役にやられる。日本の天皇は人民にお前は盗をしたいさうな、泣くほどしたいならさせてやる、さういふことはおつしやらぬ。この中に子供を持つた親があるでせう。子供が活動にゆきたい、芝居にゆきたいというても、人の金を倒してまでやりなさんな。やるべきものをふみ倒して子供に愉快をさせる。さういふことをして世の中はうまくゆくでせうか。無茶苦茶になりはせぬか。社會の組織が悪いから、社會の組織の變動を望むのは偶然でありません。しかしその道はその道でふんで、正當の改良をしてゆかにやらぬ。が一人のそこに快樂を果すために、人間の義務を果さぬといふことはよいことだらうか。愛といふなら盲愛である。それは親が子供に對する愛の本當の認識がないからである。

かういふことを考へてをりますと印度のガンヂー氏のサチャグラハアシラムのことを
 を思ひます。ガンヂー氏は子供の教育が本だというて學校を建てた。サチャグラハア
 シラム、サチャグラハとは眞理の把持といふこと、アシラムとは修道院といふことで
 ある。この修道院の教師になるには六つの誓をたてねばならぬことになつてをる。そ
 の第一はまことを把持することである。これが根本の綱領になつてをる。この學校は
 四つの年から十二ヶ年その學校にをらねばならぬ。その間親と接觸させぬ。ガンヂー
 氏の意見によると、親と交際させると一番困る。よい親ならよいが、ろくでない親と
 交際させるとろくなことはないといはれる。日本でもこれに類したことがある。學校
 で何を教へても親が皆壞す。親は平生自分のお母さんなどをさんざん怒つてをつて、
 子供が自分を大事にせぬと、學校の先生は親孝行を教へぬ、學校の先生は何を教へて
 をるのかといふ。自分が親孝行をしない前例を見せておいて子供がそれにならふと不
 服を云うてをるのであります。學校の先生は親孝行をせといふが、子供は親が婆さん
 をふみつけてをるもので、それをみてあれが親孝行だと思つてをる。日本の家庭でも

學校で先生の云はれてをることを本當に教へてをる家庭がどれだけあるかと思ふ。そ
 れを思ふと家庭を離れてをるのがよいのでないかと思ふ。ろくでない親は子供の側に
 をらんことである。どうですか。子供の側にをられぬものが多いのでないですか。大
 抵ろくでないものが多いのです。先度或人が酒を飲んで、子供にお前も一杯のめ、
 かはいやかはいや、と云うてゐた。あの子も親爺になつたらあの通りであると思つた。
 私はハワイでさういふことを云うてきた。

要するに自分の行くべき道がはつきりせんからである。親自身が自分の行くべき道、
 人間の幸福といふものはどこにあるのだ、それがはつきりとわかれば、子供を育てる
 といふこともその日その日の生活いつぱいによいところが出てくるのであります。だ
 から子の問題は親自身の問題であります。教育といふことに熱心になれば、自分を育
 てるといふことがその基礎でなければならぬ。さういふ點で、私はハワイの親達に、
 子供を育てることに熱心なといふことから、自分自身を育てることはそれ以上に熱心
 でなければならぬといふことを呼び覺ましてきたつもりであります。

ハワイの方の状況をみてもまた内地の方の状況を見ても將來の自己の道、將來の子孫の發展といふことを考へると、金を蓄めるより、立派な人を育てるといふこと、その子孫を育てるといふことが本當に明かになることが大切だと思ひます。子弟の教育といふことの根本は、自己自身の宗とするところを習ふことである。教へることの根本は習ふことにあるといふやうなことも考へさせられる次第であります。

第三 講

— 昭和八年五月三日夜 —

名所舊蹟を廻るといふことは或意味において、お墓まるりをするのであります。先年印度のお釋迦様の御舊跡まるりをして、そのついでにヨーロッパの方を廻る際に思つたのであります。どこへ行つてもお墓まるりをするのだな、と思つた。古い城址をみたり、或は古い藝術のあとにふれたりするのですが、畢竟は我々に先んじて行つた人達が、何らかこの人生に残しておいてくれたものに觸れ、その香に育てられるといふ氣分を味ふのであります。印度のお釋迦様の御舊跡を廻つてからエルサレムのイエスキリストの御舊跡を廻つたり、或はエジプトの古いピラミットにふれたり、或はギリシャのアガメンノンの古い墓にまるつたりしたのも、やはり何らか古い人達の相當の芳しい香氣にふれるといふやうな氣が致したのであります。

ところが今度ハワイにまるりまして、殊にヒロに着きますと直ぐにその翌る日、ヒロの本願寺にをつて主として私を招くために骨折つてをられる泉原寛海氏が、ヒロから九哩ほどある砂糖の工場のあるところへ講演に出かけるその道すがら、二箇所も墓

地に案内せられたのであります。そしてその墓地で讀經することを請はれたのであります。墓地と申しますと、極く荒涼たる一面の草原であります。ハワイでは先に死んだ人を先亡者と云ひます。私はその先亡者の墓を弔うてあるいたのであります。お釋迦様のお墓所、キリストのお墓所の方にまゐりますと、香華燈明が捧げられてをります。先年歐洲の旅にまゐりましたときに、ウインにペートベンの墓を展した際に、始終この樂聖のお墓の前に花輪が捧げられてあるといふことを聞きもし見もしたのであります。

ところが、ハワイにおけるこの先亡者の墓場に行きますと、墓石のない墓がたくさんある。ただ野原に埋んであるだけです。その上に小さい棒杖が立ててある。それが誰の墓やら見分けのつかんのがたくさんあります。さういふところに立ちましたとき異常な感じにうたれたのであります。大體私はお墓といふことについては、非常に感じの深い男であります。或はこの宗教といふものは、墓場に對する絶對的な感想と云うてもよいのではあるまいか。或人は坊さんは墓守りだと申しました。私は若い頃は

さうした坊さんになることを嫌ひました。が私自身の精神的な傾向をみまするとき、やはり墓番であるやうな氣がします。そして墓番であることが非常に尊い仕事であるといふことをこの頃味ひます。私は墓場が好きであります。京都の學生時代に『歎異抄』を懷にして親鸞聖人のお墓の前で靜かにそれに讀み耽つたものであります。また京都の學生時代には、あの烏邊野の墓場を夜分に通つて、そこで或事を感ずるといふやうなことを試みたこともありませう。東京にまゐりまして、あの雜司ヶ谷の墓地、或は染井の墓地を散歩することが好きでありました。銀座の散歩よりも雜司ヶ谷或は染井の墓地を散歩するといふことが、何か私によい感じを與へたのであります。それによつて私は非常に勵ましを受けるのであります。先年印度にまゐりましたのは、お釋迦様のお墓まゐりがしたいといふ氣持からであります。それから旅程を歐洲の方に延ばした際にも、キリストのお墓まゐりがしたいといふことが大きな原因でありました。またギリシャに行きましたのは、ソクラテスのお墓まゐりがしたい、かういふやうな氣持であります。

かういふやうな氣持で私はこの最近の滿洲國をみてをるのであります。日本が國際聯盟を脱退してまでも滿洲國を支持せにやならんといふことについて、いろいろ人の云ふところを考へてをるのであります。私の考の最も深い根柢をなすのは、ともかくこの滿洲の土地は、我が親愛なる同胞約二十萬の骨を埋んだところである。それをどうしても祖先を大事にしない人達に任すことが出来ないであります。丁度一昨年六月滿洲を旅してきました。九月事件の發する間際で、隨分問題がさし迫つてをりました。それに私のまゐりましたのは、滿鐵の招聘によるのであり、また憲兵隊の方の關係もあつたので、問題の切迫してをる狀況がよくわかりました。勿論軍隊では殆ど各處で話をしたのであります。私が旅順に行つて、あの戰跡を親しく觀察したとき、身の打ち慄ふやうな感じを受けたのであります。

私は思ひました。今この地を踏まずして滿洲を考へたとき、所謂インターナショナルといふやうな木の股から下つた人間の考へるやうな考も起るのであります。さういふときには滿洲を放棄してもよいといふことを考へられないでもないですが、一度旅

順の地に立つたときに、私共はどんなことがあつてもこの土地は、この土地の精神の添はない人に蹂躪させてはならないといふことを深く感じたのであります。遼陽・奉天方面では到るところで戰死者のお墓まゐりを致したのであります。奉天にまゐりました、あの清朝の祖先、愛親覺羅氏の陵にまゐりました。奉天の東西南北に清朝の御陵があります。先年ヨーロッパの旅行の歸りにもこの北陵にだけまゐりました。本當に荒れてをります。清朝の時代には非常に盛であつたのですが、中華民國が興つて、清朝を亡して以來、隨分御陵が荒れましたのみならず、中華民國の官吏達は、この昔の陵を發いて墓の中にある寶を取出すといふやうなことをやつたのであります。今のこの中華民國の人達には、昔の孔子様の説かれた精神は殆どなくなつてをります。支那には孔子様があり、老子があり、我々の尊敬する曇鸞大師もをられれば、道綽禪師もをられる、善導大師もをられる、また賢首大師もをられる。智者大師もをられる。立派な方々がをられるのです。先年北支那を廻つたときに、あちらにをられる日本人の方々に申しましたのですが、あなた方は支那といふとあの苦力を思はれるやうであり

九〇
ますけれど、私共が支那人と思へば、孔子を思ひ、老子を思ひ、善導大師を思ひ、曇鸞大師を思ふ、支那人に對する感じは餘程違ひますな、と云うて話をしたつたのであります。私は支那人を見るとときに、いつも孔子の靈或は曇鸞・善導の靈をわかつてる人種といふやうに考へるのであります。それで相當に敬意を拂はずにはをられないのであります。たまたま苦力などの様子をみましても、これは何らかの具合でかうした變形が出来たのだ、かういふやうに私は考へたいのであります。しかし今日の所謂中華民國の人達は、祖先の靈を祭る道を知らない。實は孔子の廟さへ發き、また各方面の寺を毀つて、御本尊を美術品として外國に賣却するなど、随分いろいろのことをやります。また支那人ほど祖先の墳墓を荒す民族は少いやうであります。かういふやうな民族の手に大切な同胞の血肉の葬られてある土地を渡すことは出来ない。私が滿洲は大事だといふことはそれだけなんです。日本人がこの國のために命を捨てたこれらの人達の血の染つた土地をおめおめと返すやうであるならば、もう日本といふ國は亡びる時なんでしょう。

九一
日本の國民は祖先をまつる。非常に尊いことです。外の國では神様といふものは天地の主宰者、といふやうに考へられてをるのが多いやうでありますけれど、我が日本民族では神様は我々の祖先なのであります。我々は神の子孫であります。我々が神を祭るのは、祖先を祭るのであります。ヨーロッパの人達は祖先崇拜の宗教を淺薄だと申します。その議論はどつちでも出来すけれど、私共は祖先崇拜といふことと思つてをる自分達は幸福だと考へてをるのであります。祖先の靈を祭る、殊に日本の津々浦々に至るまでありますあの鳥居の建つた神社は、祖先のお墓といふよりもむしろ祖先の生きた魂であります。生き魂であります。勿論自分が祖先の墓まわりをするといふのは、單な骨にまゐるのではない、單な土になつた血肉にまゐるのでない、骨であり、血肉であるが、そこにはその人達の非常な骨折がある。我々が何をするにも、先に行つた人の骨折なしにものをするには出来ないであります。例へば、今日ここに我々が集をしてをりますが、この集をする我々の爲に、この家を建てるだけの骨折が積まれてあります。今日昭和八年の五月三日の夜、我々がここに會合

するためにこの建物が用意せられてある。この建物を用意するのに、數多の人が骨を折り、數多の金錢を費してをるのであります。その先に行つた人のおかげで、私共はここに話合ひをすることが出来るのであります。またここでかうした話を話しうるといふことは、數多のものを教へられた先生があり、またその先生に先生がある。また私にいろいろなことを傳へてくれた書き物がある。書籍があれば、書かれた先輩もある。さういふ方々のおかげで話をする事が出来るのであります。また皆さんが私の話をお聞きになることが出来るといふのも、やはり皆さんの先に行つた人の骨折がないのであります。必ずものの起るには、起らにやならぬ原因があつて起きてくるのであります。突然出来るものでない。さうすると今の自分は、先の多くの人達の生活を肥として成長してをるのであるといふことを考へずにはをられぬのであります。支那の聖人の言葉にも、古きを温ねて新しきを知るといふことがあります。この古きを温ねるといふことによつて、本當に私共の新しく進む道が発見出来るのであります。

す。

私は學生時代から何でも人の眞似をすることの嫌ひな男であります。それから繰返しの嫌ひな男であります。自分が講演をしてをつても、先日あなたのお話なさつたことをもう一遍話して下さい、と云はれても話すことの出来ない男です。一歩づつ新しい世界に進んでゆくことにつとめてをります。學生時代には、歌を詠んでも、俳句を作つても、新しいものを求めて止まなんだので、友達は私に斬新外道といふ渾名をくれた。斬新なことを好きな外道だといふのです。ところが、この新しきを好む私は、常に墓を愛します。そしていつも古いものを古いものと追うてをるのであります。例へば佛敎を研究しましたが、私は明治時代に生れてをりますが、明治や徳川の時代に書かれたもので満足出来ないであります。眞宗などでも親鸞聖人のお書き物や、その頃のものにふれなければならぬ。また親鸞聖人のお書きものを讀んでをると、遠く遡つて釋尊時代の經典にふれなければ承知が出来ないのであります。また日本の歴史を探つても、徳川時代や室町時代のものよりも、もつと古い方面に至らなければ承

知が出来ない。また支那の學問をしましても、清朝や明朝、或は宋朝や唐朝のものよりも、もつと古い時代のものにふれたい。或は繪をみても、書をもつても古いものに憧れるといふ點があります。新しきを追ふ私の心の中には、古きものを常に求めるといふ傾向があります。子供が非常にかはいといふ心と同時に、両親が非常になつかしいといふことを同時に味ふことが出来るのであります。

私がアメリカを廻りました際にも、最初に丁度アメリカの五月の三十日の墓まるりの日に出くはしました。それからコンコルドのエマーソンの墓を展し、ボストンのロングフェローの墓を展し、それからニューヨークに行つては、日本と特別の關係のあつたルーズベルトの墓を展しました。それからワシントンに行つてワシントンの墓にまゐりました。到るところで墓場にまゐつたのであります。そして靜にアメリカ精神の基くところを考へたのであります。さういふ意味で私は墓場に立つて人類の新しい進路を考へるといふ傾向があるのであります。

今度ハワイにまゐりまして、草原になつてをる墓場にまゐりました。誰の墓ともしれぬその墓場に行つて讀經し、非常に強いショックを受けたのであります。その後各所でさういふやうな墓にまゐりました。ヒロの近邊で無縁塚の墓標が倒れてをつたから一踏に行つた方に御依頼して、私のささやかな淨財を投じて新しい墓標を建ててもらつたのであります。何だか非常によい氣持を味ひました。墓掃除をしたり、無縁の墓を建てたりするといふことは、本當に愉快なことであります。

近來私はかういふことを考へてをります。古道具屋に佛様の古いのがかざつてあると非常に痛ましい心がかかります。殊に手が取れたり、後光がもげたりしてをる佛様のあるといふことは氣にかかるのであります。奈良にまゐりましたときに、古道具屋が佛様を粗末にして籠の内に佛様を盛つてあつた。何だか痛ましく思つて直ぐにそれらの佛様を皆求めまして、早速修繕をしまして、安置し、大切にお守りがしたいといふ人に、ぼちぼちお願ひしてをるのであります。今度ハワイにも數體お供し、カリフォルニアやオレゴンの方面にもお送り申したのであります。さういふときにも私はやはり古い跡を尋ね、新しい道を考へてゆく、といふやうな傾向があるのであります。

ます。

日本はどこに歩いてゆくかといふことを十年ばかり前から考へ出した私は、その歩いてゆく針路を的確にみるために、日本の神代の研究に足を踏み入れたのであります。神代を研究するといふことは、要するに祖先の墓を尋ねるのであります。墓と云ひますと、有名な人の墓、お釈迦さんとか、キリストとか、或はアメリカならワシントン、日本においては神武天皇の御陵、或は明治天皇の桃山の御陵、といふやうな有名なお墓におまわりするといふことによつて多くの勵ましを受けるは申すまでもありませんが、しかし、粗末な墓、名もない墓、東京の駒込あたりにゆくと随分無縁の塚が溝の石になつてをります。さういふのを見ても非常に異常な感を受けるのであります。さういふやうな人達は世の中に功勞がなかつたらうか。世の中を支へて進ましめてきたには、いろいろの人の功勞があつた。まあ例へば、大きい芝居をみます。先年歌舞伎座の菊五郎の芝居をみたとき感じたのですが、今度の芝居は菊五郎の芝居だ、と人は申します。が菊五郎一人で芝居は出来ぬ。その菊五郎の芝居が進行するためには馬の

足になるものも、拍子木を叩くものも入用であります。芝居の中に芝居が出るときに、その見物人になる役者がある。ただ扇を持つてあふいでをるやうな役割をしてをる。その一人がをらなければ芝居は調はない。それを思つたときに、私共は芝居をみてをる見物人も知らず識らずのうちに芝居の一つの役割を務めてをるといふことを思つたのであります。今晚ここに曉烏の講演會が開かれてをるが、曉烏が講演をしてをるとき、同時にあなた方も講演してをられるのであります。この寒いのに私一人が講演をするわけにゆかぬ。さうすると曉烏の講演會の一部分を皆さんが背負うてをられるのであります。名を出すときは曉烏でありますが、しかしその根柢には、話す私と共に聞く皆さんがある。大將一人で戦は出来ぬ。大將が一人名を成すときには、たくさん兵卒が働いてをるのであります。私は名のある人の墓を展すると同時に、名のない人の墓を展したときにも、そこに根柢的な力を感じるのであります。私はこのハワイの草花々たる墓場にゆきましましたときに、今日はハワイにをる日本人は相當の地位を保つてをります。ここ十年もたてば殆どハワイは日本人のものになる

ほどになつてをります。併しこの日本人の勢力はどうして出来たか。明治元年の頃であります。始めて移民が渡つた時代には随分苦勞をしたのであります。昔砂糖の耕地に傭はれた老人の話を聞きますと、ブラックに棚を拵へて、そこに品物のやうに積みかさなつて寝かされたさうです。さうして朝早くから仕事に出されて、白人が鞭を持つて、ゴーヘーゴーヘーと追ひ立てる。丁度牛か馬かを追ふやうなものであつたさうです。さういふ間に命がけに働いた。その頃は死んだつて葬式をして貰へない。小さい箱を一つ作つてそれに死骸を入れて、死んだその日に山に持つて行つて埋める。坊さんがをるでもない。おつとめをしてもらふでもない。さういふ際に廣島・山口・福岡・熊本あたりから来た人の中に、『正信偈』の一つも知つてをるものは坊さんの代理をしてお葬式をしたといひます。さういふ關係でハワイの佛教の繁昌は、日本の本願寺より布教したといふより、ハワイの人達の自らの要求で、葬式をしてもらひたい、かういふのが強い要求になつて寺が出来たのです。また僧侶をも求めたのです。或植民政策を語る人が、落着いた植民地を作るには、先づそこに遊廓地を設けにやならぬ、

酒場を開かねばならぬ。次には學校を開かねばならぬ。が安心して墓を建てられる寺を建てにやならぬ。かう申します。樺太あたりに行つてみましても、朝鮮・満洲に行つてみましても、やはりさうしたことが自然に考へられてをるやうであります。寺が建つて、そこに墳墓の地が確定せられるやうにならねば、落着いた生活が出来ないのであります。近來ブラジルでは、向うにをるカソリック教徒は佛教徒の渡ることを嫌ふさうでありますが、本當にブラジル移民に成功をせしめるといふ念があるならば、日本人の根柢にある宗教思想が實現せられるやうに、佛教の寺院を向うに建設するだけの意氣込みがなければ、本當に落着いたブラジルの植民は出来ないと思ひます。その點はうんと腰が据らねばならぬと思ひます。カソリックの國に這入るから、カソリックの手前氣兼ねで腰が弱いといふことはいかんと思ひます。やはり日本民族には日本民族の血が込み込んであります。佛教の精神によつて葬式をするといふことでなければならぬと思ひます。私など葬式坊主を悪口云うたものであります。今日に葬式坊主がゐてくれないといふことは残念に思はれます。本當の意味において葬る、本

當の意味において先立つた人の葬式をする、この精神をもつてをる坊さんが少いです。従つて今からの時代を指導する元氣がないのでないかと思ひます。僧侶の葬式すること、墓まるりをするのが悪いのでなくて、本當にそれをしないことが現代の僧侶のまづいところでないかと思ふ。墓にまゐつて感じにやならんことがあるのです。今の世が盛になつてをるのは、先に行つた人達の骨折の結果によるのであります。

今日日本が滿洲を支持して立派な滿洲國の建設に力を添へてをりますが、それは一朝一夕のことでないであります。日清戦争以後約四十年の間の日本人の骨折が現はれてきて今日に至つたのであります。ところがヨーロッパの人達、ロシアにしても、アメリカにしても、イギリスにしても、フランスにしても、日本ほどそれだけあの滿洲の地に骨折をしたかどうか、血を流し、骨を砕いたかどうか。そこいふと世の中は畢竟骨折つたものものなんであります。骨折損の草疲れ儲といふことがありますけれど——ちよつと考へたときは、骨折つてつたらん、縁の下の力持ちだといひますが、長い目でみてをると本當に骨折には報はれんことはないのです。他から報はれるとか

利益といふやうな報がなくても、骨折つてゆくといふことそのことが、永遠の人類の歴史の上に何らかの貢獻をするといふ、働をするといふことの點において、名前が残らうが残るまいが、大きな報があるのであります。名は残らんでも土中の灰ばかりだつてある。その功勞によつて明い世界が建設せられてゆくでないか。

南無阿彌陀佛をとなふれば

炎魔法王尊敬す

五道の冥官みなともに

よるひるつねに護るなり。

と親鸞聖人が御和讃で御信心の實感を述べてをられます。かくれた神々がこの信心を護つて下さると親鸞聖人が申されます。このかくれた神といふものは、どこにかくれてをるか。所謂無縁の塚の下にをるそれらの人が五道の冥官であります。その骨折によつて今の社會が開かれてをるのであります。私は立派な墓石の前に立つてその人の生前の功勞を思ふと同時に、墓石のない土饅頭の前に立つて、この人に生前の功勞が

なかつたとは思はれないのであります。相當に功勞があつて報はれてゐないといふことを思ひますと、その報はれてゐない果報が、積み重なつて我々の果報として恵まれてゐるのでなからうか。さうなると無縁塚の下に眠つてゐる人の功績の方が、立派な墓石の上に現はれてゐる人の功勞よりも、もつと社會の根柢に寄與するところがあるのぢやなからうか、こんなには思はれるのであります。

私はハワイにまゐりまして、到るところの墳墓にまゐつて、非常な勵ましを受けてきたのであります。そして我々自身は大いにやらにやらならんといふことを感じました。またハワイの今の青年達——先亡者の苦勞によつて生れた子供は先亡者の骨折のおかげによつて、高等學校を出、大學校を卒業した人がたくさんあるのであります。

近來ハワイでかういふことを聞く。どうも人種の差別があつて、日本種の人が大學を出てもあまり用ひてくれる人がない。進路が塞がつてゐる。かういふことを聞きます。先年アメリカ本國の方でも聞いたのであります。それで私はハワイの青年によく語つたのです。諸君は親の骨折によつて大學を卒業するやうな身分になつたのではない

か。それを諸君はただ白人の建てた社會に入つて、一雇員で容易に生きてゆかう、多くの働をせんで、多くの月給を取つてゆかうとする、それはあまり蟲がよすぎはしないか。昨日も中學校を出たものが、どこかよいところがないかといふ。どこがよいのですか。どこでもよいのです。さういふのはをかしい。何がしたいのか。世の中に生きて何か貢獻するところがありたい、どんなことがしたいか。その人間の目的が定つたら、その進路を開くために、私が紹介の出来る事は紹介してあげよう、どこでもよいからといふものには私は相談に乗られない。これは時代が變つてをりますが、私には金澤は搖籃の地であります。中學時代にわしが世に出てからどこへゆかうかと迷はなんだ。俺は軍人になる、或は教育家になる、或は僧侶になる、と皆確固たる志望を持つてをつた。ですから中學校の生徒が寄つても、出てからどこへゆかう、どこの學校へゆかう、さういふことは問題にならぬ。天下を如何にせん、蒼生を如何にせん、なかなか遠大な志望をもつてゐたものである。ですから學校を出てからどこに備はれよう、さういふことは考へたことがない。さういふことを考へなくてもよかつた。こ

の頃の人はパン問題をどうしようといふ。さういふことは考へなくてもよい。口があったら食へるのです。かういふ話をする、お寺に生れたからさういふことを云うてをられるのだといふが、お寺にゐて食ふことに心配せずにをられるなら、どこへ行つても心配せずにをられる。私は貧乏寺に育つた、袋を持つて米を貰うてあるいて育つたのだ。それが覺悟ならどこへ出て生きてをられる。我々が人生に生きるだけの志願があるならば、そのことが人生を益することなら、人が食はず。だからこの一身を世界に投出してゆくのです。今の若い人には、その投出してゆくだけの精神がないのではないか。だからどこかよい口を探して下さい。どんなところがよいのか。なるべく月給がたくさん當つて、骨折のないところ、汗の出ないところといふ。そして金をたくさん儲けて、自分はたくさん取る。またさうなるのが當りまへである。餘計働かみや遊ぶ時間がたくさんある。さうすればたくさん金が要る。事業費がほしいといふなら仕方がないが、遊ぶ費用がほしいのですから變です。ハワイにをる青年にはさういふ考がある。第一世の人があの棚のやうなところに寝て、動物のやうに埋められてい

つた。その骨折を諸君は知らないのか。その意氣がないのか。人生は意氣です。今の日本の青年達はその意氣があるかどうか。一步出てゆく意氣、今までに出來てきた社會に當嵌めて容易に入れてゆかうといふのでない。今からの世界を造つてゆかうといふだけの意氣がほしい。それにはあの草原の中に動物のやうに葬られていつた先亡者のその骨折といふものを深く自分の根柢に味はねばならぬ。諸君は諸君の親の骨折を無駄に思つてはならぬ。あれだけの苦勞をしてゆくならば諸君の前には、もつと偉大な運命が待つてをるぞ、といふことを私はしきりに話してきたのです。その點ゆくと、老人とはかういふことを云ふものですが、今の若いものにはかうした元氣がないやうです。先度もハワイに行つて私より一つ年上の人と話した、二人とも朝から晩まで働くのですが、若い人は元氣がない、若いものは意氣地がないなというてをつたのです。何かかう若い人は元氣がないのです。直ぐに人に依らうとする。早く成功せんとする。人間一生の間に成功しようといふ馬鹿なものがあるか。私は世の中の成功者は馬鹿者だと思ふ。あまり世の中に生きて受けのよい人間は滅亡期に入つてをるので

す。私は私の先輩から、君は一生ならずものだと云はれたことを喜んでをります。私は出来上りたくないのです。佛教の信心に、現生に正定聚になり、未來は佛になるといふのが所謂二益です。私共は現在に成功しない、また現在に成功出来るやうなさういふ小さい願を持つてをらぬ。この五十年や七十年の人間の一生によつて出来上るやうな、さういふ小さい願を持つてどうしますか。私は若い人がよくいふ、お金を蓄めて隠居することを欲する。それなら今から隠居した方がよからう。ハワイに行つて小金を蓄めて、直に國に歸る。二千弗は日本金の壹萬圓、これだけあれば日本に歸つて樂にをられる、利子がこれだけと算用してをる。さういふやうな退嬰的な人間の預け金に利子をやらぬ方がよいと思ふ。恩給なども考へものです。恩給をもらつて魚釣をしてをるものがある。何でさういふやうな魚釣なんかしてをるのかと云ふと、わしは釣るのが面白いので一向食はぬと云うて辯護する人がある。食はぬなら尙釣つてはいかん。日本は國費が足らんのためからこんな馬鹿なことをして遊んでをるものの恩給は取り上げてよいと思ふ。下らぬ殺生などをする元手に恩給をやるのは惜いもので

す。さうしたことをするよりも繩でもなうてゐた方がよいではないでせうか。

妙なのです。元氣のない連中がよつて社會が悪いとか、世の中は詰らぬものだとか、不公平だとかいふ。さうしてどこかにうまいところがあると思つてをる。人のあまり汗を吸はうと思つてをる。それがをかしい。私共は今からよい世界を作つてゆくのです。どこまでも自分は働いてゆくのです。永遠にこの進歩の道程をゆく、この一身を投出してゆく。五十年や七十年で出来ることでない。私共は小さい願を持つてはならんと思ふ。小金を蓄めて利子で生きてをるものは、丁度生きながら墓場に這入つてをるやうなものである。むしろさういふ人よりも野原に土饅頭になつて果てていつた人の方が氣が利いてをるのである。私らさういふ生活を願うてをります。成功するせんでない。不成功の生活でもない。永遠の未來に成功を期しつつ一生望に燃え、死ぬる今はまで前途に光をみとめ、どこまでも隠居しない、どこまでも前途をみつめてゆく。さうした生活を望んでをります。一生若い心でどこまでもどこまでもゆくのです。ハワイに行つて聞いたたら、青年達に滿洲へ行くと、日本から行つた或人が云うて廻

つてをつたさうだ。私はハワイの青年に満洲など行くなと云ひました。日本から行くだけで澤山である。むしろ北米にゆきなさい。それでも白人が用ひてくれない。用ひられようと思ふからいかん。白人を用ひてやらうと思へ。私の青年達への奨めはそれである。人を排斥するのは悪い。人を用ひてやれ。世界中の人を用ひてやれ。世の中に棄たりものはない。劇薬だつて用ひ方がある。モルヒネだつて用ひ方によつて間に合ふ。ストリキニーも用ひ方によつて間に合ふ。非常に毒なものでも用ひ方によつて薬になる。さうすることの出来るのが良醫である。醫學は薬の用ひ方である。本當に人生を考へてゆくときはすべてを容れられるのだ。排斥すべきものは一つもなくなるのだ。偉大なる魂を持つて皆を調和し攝取してゆく。白人が我々の進路を阻害する、さういふ小さいことを思はんで、皆を自分の内に容れるのです。今日本が國際聯盟を脱退して非常時と云うてをるが、これは精神的に脱退してはならぬのであります。本當にそれを自分の内に容れて考へる精神から、形式の上に脱退しただけであります。もう一步進んでゆけば國際聯盟は日本精神によつて本當に實現せらるべきものであります。

ます。我々は、人が自分を容れてくれないといふ小さい考へを持たんで、すべて自分の内に攝取してゆかうといふ大きな魂を持つのです。もつというたら、全地球の人類がわしのいふことを聞いてくれない、わしの胸の中に安心してくれないのは、まだわしに徳が足らぬのだ。大いに徳を積まにやならぬ。力が足らぬのだ。大に力を養はにやならぬのだ。そこが我々日本人の大いに努力すべきところである。徳を積む、力を養ふ。そして本當に全世界を大和魂に攝取して、そして太陽の輝くやうに、日本精神のもとに社會の平和を來さにやならぬといふのが、我が大和民族の天から受けてをる偉大な使命だと思ひます。その使命を果すために、我々の努力は、この無縁塚の下に土饅頭になるといふだけの覺悟が大切であるといふことを、このハワイの無縁塚の草茫茫たる墓場に立つて、私は感じたのであります。そしてこの先亡者の後を追うてゆくだけの生活の偉大な力のあることを味うたのであります。

ハワイを七十日間巡遊して、全世界を太陽の如く養育する偉大な大和民族の精神について話し廻つたのであります。招待したのはヒロの東本願寺の教團であります。ま

た私は日本においても真宗大谷派の末寺の明達寺の住職をしてをる。さういふ關係ならば、單に真宗大谷派の人達とだけ話合ひをするやうになるのでありますが、今度私のハワイにおいて得た御縁は、一宗一派に偏したものではなかつたのであります。真宗のお東もお西も、また禪宗の方の別院でも、浄土宗の寺でも、キリスト教の會堂でも、嚴かな祈禱の後に佛敎の話をしたのであります。また聴講する方も、各方面の人がお集りになつたといふことであります。續けて話をしたのは、ホノルルで三日間、聖徳太子の『十七條憲法』について大和魂を語りました。またヒロでも三日間『十七條憲法』について大和魂を語つたのであります。さうした講演の旅を終へて、四月十八日の淺間丸に乗込まうとした際に、船が出帆する午後の一時半から二時半までの一時間、領事館の後庭で松岡さんの講演があるといふことを聞きましたので、私は友人に誘はれて拜聴にまゐつたのであります。當日は非常にたくさん聴衆がありました。ラウドスピーカーをかけて、相當に長い話がありました。國際聯盟の成行の細かな話、それから歸途イギリスに廻り、アメリカを廻つて來られたことを細かにお話になつた

のであります。その語られるところは、私共の考と餘程合うたところがありました。七十日間の旅行の最後に、この講演を聞いたことは、非常によい結末を得たやうな心持でありました。

私は一月の三十一日に横濱を發つたのでありますが、その前日の三十日の晩は東京の帝國ホテルで、ニューヨークから來てをられるメーンといふ友人が私の送別會をして下さつたのであります。これは妙で、アメリカへゆく日本人を、日本のホテルでアメリカの人が送別會をして下さる。どういふ人を私のために招んで下さつたかといふと、日本の老學者井上哲次郎さん、或は佛敎界の元老高楠順次郎さん、私と同年輩の紀平正美さん、或は宗敎局長の下村壽一さん、それから、古神道の笈克彦さん、早稻田の鹽澤昌貞さん、日本精神文化研究所の大倉邦彦さん、正宗白鳥さん、今岡信一良さん、角田柳作さん、平石貞市さん、横濱の東本願寺別院の輪番鹿野久恒さん、ローランさん、ベリーさんといふやうに、それぞれ違つた方面の人であつた。丁度メーソン氏の計ひで、私のテーブルの兩脇にをられたのは笈さんと下村さんであつたので

話が大變はすみしました。寛さんの書かれた著書は大抵私がよんでをりました。非常な訓育を受けたので、厚くお禮を申しました。それから佛教と神道についての對話が取り交はされました。下村さんは横にをつて、あなた方二人で話をしてもらへば、佛教と神道の折合ひがつくと笑うて云うてをられた。あまり時間がなかつたのでまた後日ゆつくりお話をしようと思つて喜んでお別れをしたのであります。

丁度日本を發つてハワイに行く際に、寛さんに逢うて日本の古神道について話合ひが出来、そしてその會を催されたのがアメリカ人であつて、日本精神に造詣の深い熱心な神道研究者であるメーソン氏によつて開かれたことは、何らか因縁のあるやうに思はれます。そして歸るときにまた恰もゼネバで日本國民の血を湧かした演説をして實際聯盟脱退の機縁を作つて來た松岡氏の演説を聞いたことでもあります。表面から云へば外交として喧嘩して歸るなら失敗であります、しかも失敗して歸られる氏を、到るところ潮の如く國民が歓迎するといふことは、何か國民の精神の機微にふれてをるところがあるのだと思ひます。この演説を聞いたことはハワイの旅行のよい結末と思ひました。

ひきました。

私の淺間丸の部屋はBデッキの百六十五號でありました。あまり客がなかつたものですから比較的に廣い部屋を一室與へられたのであります。行きしなは大洋丸で部屋だけは二等であつた息子武雄が船の方の計ひで私の部屋に來てくれたので二人であつたが、今度は一人であつた。友達の十五になる子供、これは日本にあづかつてきた子である。その子は三等にをつた。毎日私の傍にきたが主に私一人であつた。その私の部屋の世話をしたボーイは甲州生れの人であつた。随分向う息の強いボーイであつた。船に乗つた日私はそのボーイに叱られた。私は眼が悪いものですから、そこらを通つてゐるボーイに何でも命じた。ところが私の部屋づきのボーイが夜分に來て、あなたほどの人が誰にでも用事を命じられてはいけません。私は司厨長から叱られました、誰にでも云はれるから私が怠つてをるやうに思はれて叱られました。とふんぶん怒つた。私は眼が悪いもので誰でもボーイのやうに見える、お客様でもボーイのやうに思ふ。時々お客様をボーイのやうに思つて失禮した。あなたはさういふが、

私は眼が悪くからわからなくて、人がきたらボーイのやうに思うて失禮した。さうですか今度から誰にでも云はんで、私を呼んで云うて下さい。かやうに始の日からボーイさんに叱られた。なかなか勢が強い。大體甲州人は向う息が強い。この邊でも加賀の者、能登の者、越中の者といへば大體氣風は知つてをるが、大阪者はやさしうきても、これは大阪者だと思はにやならぬ。關東のものは荒つぼうきても考へてかからにやならぬ。甲州人は荒い。

このボーイさんから私はよい話を聞いたのです。松岡さんの演説を聞いたのはよい結末だつたと思うたが、このボーイさんからよりよい話を聞いた。この叱つたボーイさんが私に、ハワイへ何しに行つたのかと聞いた。ハワイへお話に行つた。さうですか。あなたはあつちこつちどこでも話に歩かれるのですか。話ばかりでもない。研究にもゆく。それでは今度ハワイにゆかれたのは御修行ですか、と云うた。その言葉が私には非常に愉快であつた。普通に坊さんといふと御布教ですかといふものだ。ところがこのボーイさんは御修行ですかといふ。私がボーイさんに、あなたの宗旨は何

か、といふと、何だか知りません、といふ。知りませんであなたの家に佛さんはないのか。あるかもしれません。が、この頃お母さんが死んでから南無阿彌陀佛を稱へます。それぢや眞宗かね、と云うてをつたが、簡單なものである。あなたのお話に歩くのは御修行ですか、といふ。なるほどよい言葉だと思ひました。

私は船の中の八日間を殆ど坐禪をするやうにしてきました。船の中では英文の新聞が晝出て、和文の新聞が夕方に出る。船の中にをると無線電信で内地にをるよりもつと早くわかることがある。私が盲も同様だから食堂のボーイさんが讀んでくれる。それだけのあとにはぢ一つと一人で考へてをる。眼が悪くからいろんな人と話をする機會がありません。八日間丁度達磨さんのやうに面壁九年でないが、面波八日です。その間ぢ一つとボーイさんが修行ですか、と云うたことを考へてをつた。おもしろいことです。さういふことから丁度ハワイで氣に入つた紙を買うてきたので、

應當信順如法修行

と書いた。「まさに信順して法の如く修行すべし。」といふ言葉がありますが、この修

行といふ言葉が非常に愉快であります。信心の上の生活を眞宗の教義では、安心起行作業と云ひます。安心を得た、信心を得たところから起行、行が起る。そこに業が作られる。我々のこの生活は起行作業である。だから修行である。信の上から修行する。信とは何か。信は願です。永遠の願を持つて、その願の成就をまさに高めてをる。それが信です。俺はかう願ふけれど、その願が成就するかせぬかわからない。さういふのなら信でない。願があつてその願が成就するに間違ひがない、それが信です。我々の願は信と共にある願です。この信の願によつて法の如く修行する。修行するとは願を成就してゆく道程をいふのである。行は行です。自分の中心の願を體解してゆくことを行といふ。佛教では萬物のことを諸行と云ひます。諸行無常と云ひます。皆さんは『平家物語』をおよみになりますと、その冒頭に聞かれるのでありますが「祇園精舎の鐘の聲諸行無常の響あり……」とあります。諸行とは森羅萬象といふことで、諸行無常とは、全世界のあらゆる生存物は、みな生きてをる、といふことである。みな生活してをるといふのです。行は生活です。

ある願望を具體化してゆくために生きてをる。この宇宙は偉大な願望に燃えてをる。この願望が具體化してゆくところに、萬物は生活してをる。萬物の生々たる志願を成就してゆくところの過程、それが生活である。ですから萬物は生きてをる。生きてをるから無常である。常無しといふことは變化するといふことである。だから諸行無常といふことは、非常に盛な相であります。ところが變な人間が聞くと、諸行無常といふことを、盛な相でない、非常に哀れなことだと思ふ。「祇園精舎の鐘の聲諸行無常の響あり。」非常に盛な相である。お釋迦様のをられる祇園精舎は生きて進展して止まないぞ、死んでも生きてをるぞ、といふ世界をゴーンと鐘が鳴る。それが聞きやうが悪いと哀になる。或人が聞くと非常に偉大な聲に聞くが、或人が聞くと哀れに聞く。先度婚禮の場所で南無阿彌陀佛と云うたら、今日のやうな日にさういふことを云うてくれるなど云はれた。先度松岡さんが、あなたの名は妙な名ですなと云うてをられた。私は親に感謝してをります。曉の鳥といふ。日本精神を現はしてをると思ふ。八咫の鳥がをらなければ神武天皇はお進みになることが出来なかつた。そのかあといふ聲

はまた、曉の烏の義理知らず、と云はれてをるが、あれは變な奴が聞くのだ。變な奴が聞けば義理知らずである。寺の鐘でも悪く聞くと悪く聞える。曉の烏の義理知らずといふやうに、寺の鐘つく坊主を悪いといふ。諸行無常の鐘を哀れに感じたのは、大方夜遊びなどしたものが感じたのである。反對のことを考へるのであります。眞さんは佛教は厭世思想だと云はれるので、どうしてですかと聞いたら、それでも佛教の本にさういふことを書いてあると申されるから、それは私共からみても間違つた佛教です。小乗佛教と云はれるうちには、そんな厭世思想も語られてあるけれど大乘佛教は永遠の生命の輝きを説いてある。あなたの古神道又は神ながらの道と申されるのも大乘佛教の精神そのままですと申しました。佛教は厭世主義でない。消極的でない。積極的である。南無阿彌陀佛なんてこんな偉大な積極的なものはない。阿彌陀佛は光明無量壽命無量です。全世界を自分の光明の中に融かしこむのです。光明無量は永遠の命である。大積極的思想である。大隈さんは百二十五歳まで生きると云はれたさうだが、さういふ短いのでない。無量壽である。さういふことを云うたつて君死ねたら

う。死なんのだ。死なんと云うたつて死ねたらう。死なんのだ。死なんと云うたつて死ねたらう。そりや身體のことは死んで行くだらう。これは毎日死んでをる。新陳代謝してをる。垢は死んで行く身體の粕だ。身體は變化してをる。けれども我々には死なないものがある。死なん世界がある。死なん世界に生きてをる。それが南無阿彌陀佛だ。南無阿彌陀佛になるのが大理想である。大積極思想である。ところがその大積極的な南無阿彌陀佛を稱へてをるものでも、哀れな聲で、沈んでゆくやうになむあみだぶつなむあみだぶつと云うてをるものがある。先度南無阿彌陀佛は元氣がない、南無妙法蓮華經は元氣がある、と云うた人があつた。元氣といふことが喧嘩といふことなら、南無阿彌陀佛は元氣でない。が南無阿彌陀佛は喧嘩でない。南無阿彌陀佛には喧嘩する以上の元氣がある。日本の元氣は國際聯盟脱退の元氣でない。國際聯盟を支配する元氣である。その脱退は退却である。もう一つ進んでゆくのだ。それを脱退したといふが、外國と交際を斷つたといふのでない。より以上の親密を得たいのである。といふことは三月二十七日にお下しになつたお勅語の中に明かにしてあります。そこ

に我々の修行がある。修行といふことは非常に愉快なことである。ボーイさんはえらいことを云うた。私には松岡さんの演説よりも、ボーイさんの修行ですかと云うたところが一番よい結末であつた。我々の生活は修行である。修行といふことをはつきりすれば、あまり不景氣といふことを慨歎せんでよい。金の儲かる時ばかりが生活でない。儲からんといふことも修行なのである。

私は今度ハワイに行つて、ハワイの人の懇志によつて、田舎の小さい寺の住職に不似合な一等船室を取つてもらつて、所謂檀那様と一緒に暮したわけである。また相當の贅澤も出来るわけである。さうかと思ふと、ハワイの田舎に行きますと、時によると寢臺が足りないので、家をつては息子といつしよに抱かれて寢たことはないが、はじめて抱かれて寢たりした。便所だつて遠いところまで行かにならん、さういふところに苦勞してゐるものがある。さういふところへ私共も這入り込んでみにやならぬ。時によると食ひ物がたくさんあつて困るほどであるが、時によると何にも食へるものがなくて菜つ葉でもかじつてをる、バナナでもかじつて、それでしまひつけにや

ならんことがあつた。修行なんです。人から非常にもてはやされることもあるが、もてはやされぬこともある。そこに人生の修行がある。むろん我々は自分に得意なときよりも、自分に逆境がきたときにこそ、本當の修行がある。また願を持つてをるものは常にこの波を超えてゆく。私は船に乗つてをつていつも思つた。船は白波を越えてゆく。荒れるときは向うから白い波が立つてくる。そこを二萬噸の船がぐつと乗越えてゆく。さうすると波の上に波が立つてゆく。そして船の進んだあとには、どんなのどかな波の時でも白い道が残る。がしばらくたつとその白い泡も消えてゆく。我々の人生は船のやうな力をもつて行きたいものです。一時そこに泡が立つてもその泡の立つた後には平和な世界を來す。進むときには波を破つてもよいでせう。時には争も辞しますまい。戦も辞さない。がしかし、その争も争のための争でなくて、進んでゆくあとに平和の世界を残してゆく争である。そこに我々の生活の理想がある。修行とはそこなんである。我々には何をしても願がはつきりせにやこの修行は出來てこんのです。先刻も申しますやうに、偉大な願がはつきりせんと、人生の修行といふ

ことは出来ない。日本が今非常時だといふのは、修行時代だといふのです。いつまでも修行、どこまでも修行だ。我々は修行者だ。この氣持は永遠に若い氣持である。禪宗なら雲水です。私も一生雲水でありたい。一生修行者でありたい。安心の上に行作業してゆく修行者でありたい。成功者となつて蓮臺の上ををりたくない。どこまでも永遠に盡きない願を持つてゆきたい。阿彌陀様が十方衆生を一人も残らず救はねば正覺を取らじとおつしやつたお願は、成就するに間違ひないといふ確信であるが、ただ成就してをらない、彌陀は今も因位でまします。その因位の彌陀の願が、我々の今日のゆくべきところの力であります。その完成を期してゆく生活に修行といふことがあります。ですからどんな難儀が来ても、それを漕ぎ分けてゆく。そこに愉快と力を感じてゆくとところに、私共が日本精神の傳統を受け、我々祖先の血の恵みを受け、また遠く印度のお釋迦様の教を受け、或は支那の孔子の教を受け、近くは泰西のギリシヤ或はユダヤの聖人達の薰陶を受けて育てられてをるこの大和魂の發露する生活であると信じてをるのであります。このボーイさんの最後の修行ですかというた言葉

は、私の三ヶ月のハワイの旅の全生活がよく現はれてをると思ひます。

私は要するに二三四の三ヶ月太平洋上三千四百哩を越えたあなたの國に、或は大名のやうな暮しをし、或は乞食のやうな暮しをして修行してきた。そして偉大な大和魂の進展について、願望成就の生活をしてきたのであります。かくて私の修行はこれからまた内地において進展してゆくのであります。どこまでも止むことのないこの願を成就する努力の生活に生きてをる私自身の幸福をしみ思ひます。そして我が日本の國に生れ、尊い教を受けて、この永遠の未來に對する願を持つて愉快に晴々した生活の出来る自分がありがたく思ふのであります。すべての先覺者、我が祖先に對して、また我が先賢に對して、常に厚い感謝の念を禁することを得ないのであります。同時にまた、近くは我と共に、或は味方となり敵となり、私共を勵まして下さる、所謂修行の道づれの同行に對して、深い感謝を禁することが出来ないであります。今度はこの感謝の心持で三日間の講演を終わります。皆さんが熱心に聽聞して下さったことに對しても感謝致します。

此の火柱を見よ

日本は今や眞夏の太陽のやうに中天に懸つて全世界に白熱の光を浴せかけてゐるのだ。中天に懸つてゐるこの火柱に地球上の人類が眼をくらまして卒倒するやうな状態になつてゐるのである。

日本が國の運命を賭して滿洲國の支持に努力してゐるのはヨーロッパの國際聯盟の人達が考へてゐるやうな浮いた話ではないのだ。聯盟の首腦者である英國や佛國が支那を愛してをらぬことは阿片戦争以來の歴史が證明してゐるではないか。米國は今日まで支那に於て何等の利權も表面的には得てゐないが、露國は日清戦争後清國が日本に割讓した遼東半島を所謂三國干涉に依つて還附せしめ、それを自分の手に收めて悠々と旅順に要塞を作り滿洲全土を自分のものとせんとしたのである。それまで支那に頼つてゐた朝鮮は露國に頼つて我が國に敵意を表するやうになつた。此處に於てか日

本は已むを得ずして東洋平和の維持の爲めに露國と戦つた。そして勝つた。勝つたのは兵力の強きに依つたといふよりも寧ろ天恵が日本をして勝たしめたのであつた。斯くて日本は露國が支那より得て居つた特權を踏襲することになつた。その後朝鮮と日本とは兩國の便宜の爲に併合することとなつた。馬賊の會長であつた張作霖は清國滅亡後、我が國の支持を受けて名前は中華民國の中にありと雖もその實は殆ど獨立國の觀のある滿洲政府を形づくつてゐた。ところが咽喉元過ぐれば熱さを忘るる風情で、張作霖は日本の勢力を滿洲より撃退せん事を考へ、〇〇の資本を輸入して日本に當らうとした。茲に於てか日本は再三彼を警めたが、彼は表面日本に聽きつつ裏面では日本に反對の策略を進めつつあつた。茲に於てか、日本の氣の早い志士は彼を殺戮する悲しむべき非行をも敢てするやうになつた。張作霖の死後その子の張學良が代つて滿洲を支配する事になつた。日本は彼を支持して一方露國の南下を防ぎ、一方〇〇の東洋侵入を防がうとした。併し學良はその父の志を承けて日本に好感を持つことが出来なかつた。茲に於て彼は中華民國の政府と妥協し〇〇の資本を頼んで、日本を滿洲の

地より追ひ拂はんとしたのである。彼の日本撃退の方策は着々と進められ、總ての事業に於て日本人が手を出すことの出来ないまでに壓迫するやうになつた。滿鐵の併行線を作つて滿鐵を全滅せんと謀り、撫順の炭坑や鞍山の鐵礦をも日本の手より奪取せんと企てた。一九三一年の六月私は滿鐵の招聘に應じて滿洲各地に講演旅行をし、天津・北平の同朋の請ひに従ひ講演の爲に彼地にも行つた。その折既に日支の反目は頂點に達してゐた。一寸指を觸るれば直に破裂する鳳仙花の熟した實のやうに緊張してゐた。その折滿洲に久しく働いてゐる日本の識者は、日本が滿洲を全然拋棄し既に滿洲に住んでゐる二十餘萬の内地人と數百萬の朝鮮人を引連れて歸り、日清・日露の二戦争で血を流して働いた二十萬の同朋の墓を遺棄し、旅順・大連・鞍山・撫順・奉天・安東、その他の各地に於て投資した數億の資本をも拋棄してしまふか、でなくば張學良を追ひ、〇〇資本の輸入を拒絶し、此處に日露戦争後に得たる當然の權利を確保するかの岐路に立つてゐることを考へた。退くか進むかである。退くことは日本の存在を危くすることになるのだから絶対に不可能なことである。では進むか。それは國際聯盟に

對し、又日本自身の良心に對しても耐へられないことである。ではどうすればよいか。そこに必然的に考へられねばならぬことは第三國の建設である。私が滿洲に行つた折には、私自身にも第三國の建設が最も適切な方策だと考へた。九月問題の突發後、在滿の日本人も支那人もこの意見に一致した。かくて新しい滿洲國の建設を見るに至つた。さうして、その新國家の中堅として前清國の皇帝溥儀氏を推戴することとなつた。日本政府は昨年九月各國に率先してこの新興滿洲國を承認したのである。

これより先一九三一年の秋奉天の事件勃發後、支那の提議に基きセネバに於ける國際聯盟は種々の提言をした。その中リットン卿を首とした調査團を派遣することになつた。昨年の秋に至つてその報告書が聯盟に提出せられた。その報告書は日本の滿洲國承認に反對の意見を決定してゐるものであつた。又滿洲國の建設を否認するものであつた。報告書は聯盟に於て討議せられた。以後半年間國際聯盟の會議が繼續せられた。がその主要な議點は滿洲國の成立を認むべきか認むべからざるかといふ一點に集中してゐた。日本は既に滿洲國の成立を承認した。聯盟はいろいろ迂餘曲折の果、

最近に至り日本の意志及び行為に反對して滿洲國の成立を否認せんとする決議をしようとしてゐるのである。若しさる決議をするならば日本は聯盟を脱退する意氣込を有つてゐるのである。國際聯盟は滿洲國を否認し滿洲に於ける日本の既得の權利を否認し、溥儀氏から國を奪うた中華民國の手に再び滿洲を渡し聯盟國でないところの露國と米國の監督下に滿洲を置かうとしてゐるのである。それは一九三一年の學良時代に歸ることであり、なほ進んでは日露戰爭以前の狀態に歸ることになるのだ。かういふことを日本が承認出来ると思つてゐるのであらうか。

日清戰爭後露・獨・佛の干渉が日本を壓へた。日露戰爭後ポーツマスの條約で日本は戰勝の利得を最小限度に制限することに隱忍してきた。その時は日本に力が足りなかつたからだ。國際聯盟はその時のことを思ひ出して、どんな無理でも日本に強ひることが出来るかと考へてゐるやうだ。然し日本はスラブ民族やラテン民族に壓制せられる時期が過ぎたやうに、アングロサクソンに壓制せられる時機も過ぎたのだ。進んで言へばこれ等の諸勢力が合同してきても、それらに壓制せられぬだけの實力が備はつて

きたのだ。日本が國際聯盟を脱退しても滿洲國を支持せねばならぬといふことに就て全世界の代表者達が認識不足のやうだ。ともすると我が同朋の間でも認識不足の人が間々ある。先年獨逸が世界各國を向うに廻して戦争をして悲惨な最期を遂げた。我が國の國際聯盟脱退はさうした悲惨な結果を招くやうな恐れがないかと杞憂する者がある。然し當分はさうした杞憂はいらぬ事である。日本が滿洲國を支持することは前述のやうな已むを得ざる事情に迫られてのことである。これを捨てることは國を滅ぼすことになるのだ。生やさしく聯盟の決議に聽かるべきことではないのだ。だから聯盟から脱退するとしても、聯盟に對して戦ひを宣言するのでもなければ聯盟がその監督權を委ねんとしつつある米國と露國とに對して戦争を挑むものでもない。今日、日本に盲目的な敵意を抱いてゐる支那民族に對しても決して惡意を有つてゐるものでもない。日本はその國名を大和國と名のるやうに、平和の理想を有つ調和の精神の結晶した國である。太陽のやうな明るい公明正大な精神を國是としてゐる國である。この日本が滿洲國支持の爲に愛する國民を匪賊討伐のために送つてゐるのは、世界に戦争を

起さしめるがためではなくして、東洋平和の確立を期し世界戦争の根源を絶滅せんとするからのことなのである。他の絶滅を欲する主張は天の聽くところではあるまい。日本は天意の命するままに世界平和の基礎を確立する爲に尊い國民の血を捧げてゐるのである。中華民國の爲政者達もその感情に激した頭腦を冷して靜かに考慮したら、日本の誠意を諒解することが出来るであらうし、なほ今日支那に味方をしてゐるかの如く見ゆる國際聯盟の爲さんとしつつあるやうに、米露兩國の勢力の下に支配される事が決して支那自身の幸福でないことも諒解することが出来るであらう。

滿洲國を舊清國の皇帝溥儀氏を中心とする同じ支那人の支配の下に置き千三百年以來殆ど共通した文化の發達をしてきた日本の協力を得て支那全土の文明的發展を企つることを何故嫌ふのであるか。國際聯盟は世界平和を確立しようとしてアメリカの大統領ウエルソン氏が發起したものであつた。然るに當時のアメリカの國論は大統領ウエルソンの提議を是認しなかつた爲に、米國は國際聯盟に加はらなかつた。その後の國際聯盟は戦勝者である英佛兩國が戦勝に依つて得たる利權擁護の爲に小國に號令す

る機關であるかのやうになつてきた。此間日本は大國として相當に辛抱強くお太鼓持をしてきたものだ。日本がいま國際聯盟を脱退するのは歐洲大戰後に米國が諸外國に對すると同じ地位になるのだ。

また露國はどうか、今のソビエツト政府は資本主義の上に立つてゐる凡ての國家を否定してゐる國である。國際聯盟に入らない國であることは勿論である。米國は今でも露國を承認してゐないのである。世界一の資本國の米國と唯一の共產主義のソビエツトが共同して滿洲委任統治の實があげられると思ふのか。互に承認しない兩國がよつてどうして一つの仕事が出来たのか。かかる決議をする聯盟は本氣の沙汰だらうか。日本の代表者等が聯盟は數學の公式を實際生活に當てはめようとする無理を強ひるものであるといふのは當然の言ひ分である。今日まで露國を承認することを敢てしない資本國としての米國が、滿洲の地に於て露國と協調して事を爲すことが果して米國の利益であらうか。米國の利益の爲にも滿洲を米露二國の協調の下に置くことは承認せらるべきものではないではなからうか。國際聯盟が如何に決議をしたところで、米國

がたやすくそれに乗つてゆけないことは火を賭るよりも明かなことである。

此處に一人の赤子がをる。此の赤子を生んだ親の愛の心から此の赤子を育てようとして居る。然るに隣人達は此の赤子を親の手より奪うて平素互に言葉も取交さない二人の人を雇ひ入れて彼等の下にその赤子を托せんとしてゐる。これは赤子を殺さうとしてゐると同じことになるのだ。さうだ、彼等國際聯盟は三千萬の滿洲在住の人民を擁護する念慮がないのだ。愛のない決議に何の力があらう。日本が全世界の代表者の言葉に聽かずして敢て滿洲國の支持を固守する所以は陸海軍の實力が充實してゐる爲ではない。人類愛に燃え立つてゐる愛の願ひである爲に天意を信頼するからである。天意は愛に動く、誠に動く。日本は陸海軍をたのんで堂々と國際聯盟を脱退するのではない。天意をたのんで天意を世に成らしめんとすればこそ威風堂々と火柱のやうに立ち上つてゐるのである。日本の陸海軍は此の天意をうけて居る。若し天意を亂さんと企つる者があるならば敢て膺懲の力を揮ひ得ることは疑の存せぬことである。

三千年否數萬年の昔から偉大な理想を有つてゐる太陽の子日本は、今や太陽のやう

に全地球に輝いてゐる。我々日本に血をうけた者としては千載一遇の時節に生れたことを喜ばねばならぬ。日本の國內にも、左傾右傾種々の思想があり、種々の人物も居るが、此れらの凡てが薪となつて、天に冲する火柱が燃えてゐるのである。我等日本人なるものは此の火柱の薪となつて全世界を照すかと思ふと愉快にたへないではないか。今日は一九三三年の二月の十三日だ、今日はゼネバに於てぎりぎりの決定のつく日だと思ふとちつとしては居られぬ氣がする。私はいま米國の一縣布哇に來てゐる。しかも火柱の中に燃えてゐるのだと思ふと一層愉快にたへぬので此の一文を草したのである。十三は縁起の悪い日だと嫌ふ西洋の人達が、きつと此の日に決定せられた決議の天意に依つて罰を蒙るものであることを覺悟せねばならぬ。

—一九三三・二・二三—ホノルルにて—

この文はホノルルの『布哇報知』『日布時事』とヒロの『布哇毎日』とに掲載せられた。

二重國籍問題

國籍離脱問題といふことをハワイに來てから聞いた。二ヶ月ばかりこちらに滞在してゐる間、これに就て色々な意見を聞いた。そして多少私も考へてみた。そのことをここに語らして貰ひます。

日本から夫婦でアメリカに働きに來た、こちらに來てから子供が生れた、その子はアメリカの國法に依つて當然アメリカの市民権を有するのである。ところが日本から來た親達は日本に戸籍をもつてゐる。さうすると親の情として自分の家の戸籍に自分の子の名を書き入りたいと思ふのは無理はない。此處に二重國籍の問題が起つてくる。日本の國法では先づ第一に男子は青年期に入れば兵役の義務がある。海外に行つてゐる者はその兵役を延期するといふ條文がある。併しそれは兵役の義務を逃れるといふ意味ではない。アメリカの國法には兵役義務の規定はないが兵役に服する權利を有す

ることになつてゐる。

日本とアメリカが平和状態にある間は問題は起らない。併し一朝平和が破れるやうになると問題がさし迫つてくる。かかる極端な場合ばかりではなしに日本なら日本に相應した國民の養成法がある。アメリカならアメリカに適當した國民の養成法がある。

この二重國籍の人はどちらの方針に従つて教育せらるべきであらうか。親達は日本式に育てたいと思ふであらう。併しアメリカとしてはアメリカの内地に居る以上アメリカ風に養成せねば承知が出来まい。此處でも二重國籍の難關があるわけだ。自分の息子に嫁を貰うた、そしてその間に子供が出来た、その子は當然自分の家の子供である、決して嫁の里の子供ではない。嫁は一時そこに入籍したものであるから、たとひ子供を十人生んで四十年も五十年も居たとしても自ら進んで離婚しても或は離婚せしめられても自分の里方の籍に入るのが當然である。その場合に里方の戸主が自分の戸籍に復籍することを拒絶する権利がないのである。

日本からアメリカに働きに来てゐるのは丁度他の家からその家に嫁に来たやうなも

のだ。その間に生れた子供は當然アメリカの籍を有すべきである。決してそれは嫁の在所である日本に籍を置くべき筈のものではない。親達が都合に依つて日本に歸つても或は歸されても日本はこれを拒絶することが出来ないのである。ところがアメリカで生れた子ならば日本はそれを拒絶する権利がある。併し親が都合上子供を連れて歸りたい場合は里方の戸主の認可を受けて初めて連れてかへることが出来るのである。

一旦アメリカの市民として生れたものは日本に歸らうとしても日本の國籍がなければ日本はこれを拒絶することが出来るのである。此のことが親達としては二重國籍の子供に持たしておきたい所以であらう、こちらが都合のいい間はアメリカの市民となり、こちらが都合がわるければ何時でも日本に歸られるやうにしておきたいのであらう。併しそれは蟲がよすぎる、そして却つて可愛い子供の將來を誤らしめることにならぬであらうか。

一旦自分の家の籍に登録するもよからう。併し直に其の籍をアメリカの市民となつたといふ理由を以て削除して戸籍帳簿にその名を残しておけばよいではないか、自分

の子供をアメリカで働かさうと思へば矢張りどこまでもアメリカ式に育てるがよい。又日本で働かせようと思へば日本式に育てるがよい。自分達の新生面を開かうと思つてアメリカへ来た人であるならば自分の子供をアメリカ式に教育してアメリカに於て繁榮をはかるやうにとめるが當然ではなからうか。それとも自分は一時出稼ぎに來たのだ、ある程度の資産を得たならば日本に歸らうといふ人ならば、その子を日本に働かしめようか、或はアメリカに働かしめようかといふことを一應考へた上、日本に働かせようと思ふならば斷然日本に歸して日本的の教育をするがよい。

先日からハワイに居る日本人の誰彼に聞くと、自分の子弟の教育に就ては相當に迷つて居られるやうである。アメリカの學校へやらうか、日本の學校へやらうかといふことを相談されたのは二三にとどまらなかつた。育つた上で考へてみればどちらへ行つてもよいやうである。日本に生れた人で今の外務大臣の内田さんは日本の大學をへた人である。去年から國際聯盟でやかましくいはれてゐる松岡さんはアメリカの大學を終へた人である。此の二人が共に最近の日本の外交上の花形役者となつてゐる。

松岡さんが日本の大學を出なかつたので、一時外交官の列外になつてゐた（これは必ずしもそればかりではなからうが）。然し今後の國際聯盟の代表者としては、松岡さんがアメリカの大學で育つて英語を自由に話すことが出來たといふのも、却つて好結果を招いたわけである。ですから將來のアメリカの國に働くにしても、アメリカ大學を卒業した方がよいか、日本の大學を卒業した方がよいか、簡單に決定は出來ないわけだ。

教育の方針はもつと考へねばならぬことである。然し國籍の問題は斷然決まりをつけておくべきであると思ふ。自分の子供を日本人として働かすか、アメリカ人として働かすかといふことを親としてハッキリ自分の希望に依つて子供の運命を決めておくべきである。さうしないと子供は常にあやふやな人、即ち日本人ともつかずアメリカ人ともつかない腰のおちつかない人間となるおそれがある。教育は日本でしようかアメリカでしようか國籍だけはハッキリとしておく必要があると思ふ。私は必ずしも日本の國籍を離脱してアメリカ人にしてはなければならぬとも思はない、又アメリカ

の國籍を削除して日本人にして是はなければならぬとも思はない。

一四〇

私がアメリカとして考へてみると、日本の國籍を有する子供をアメリカの國費を以て教育する義務はない。又アメリカの國に於て生れた者は當然アメリカの市民となるといふ國法をもつてゐるアメリカで子を生みながら、その子を日本の國籍に入れてアメリカの國籍から除かうとする親なら、何か特別にアメリカに悪い感じを有つてゐる人だと思はずには居られない。だからさうした所置をする親に好感を有つわけには行かない。アメリカに好感を有つてもらはぬでもアメリカの教育を受けなくても自分の子は日本で育てるといふなら兎も角、既にアメリカに住んで居つて子を育ててゐる以上かうした考になることは不自然である。

だから私は大抵の場合は、日本の國籍を離脱して純アメリカ人としてその子の運命を規定しておくことが特別の事情のない限り正當なことと思ふ。或人が子供の成長して自分で選ぶまで二重國籍にして置く方がよい、何も知らぬ間から子供をアメリカ人にして是ふのは可愛さうだというて居た。これは不徹底な言葉のやうに考へられる。

私は寧ろ二重國籍を有せしめておくことが却つて子供の爲めにならぬと思ふ。自由選擇に任すといふけれども若い間はなかなかさうした選擇の力がないものだ。選擇に任すといへばお慈悲のやうだが選擇力のないものを自由に任しておくといふことは却つて迷はしめることになる。

だから相當の年齢に達する迄は親が子供の運命を見ぬいた上で方針を定めてやらねばならぬ。ある場合には自由を與へることよりも自由を與へぬことがお慈悲である。たとへば籠の中で生れたカナリヤを可愛さうだと思つて籠の外に放してやることは籠の中に置くことよりも無慈悲になる。籠の外に出せば死ぬことがきまつてゐるからである。又家鴨の雛を籠に入れておくことは可愛さうだといつて籠から放して大きな河に入れることは却つて彼等を殺すことになる。子供などは或る年齢に達するまでは自由を與ふべきものではない。國籍などは生活方針の中心となるものだから、子供の時からハッキリと定めてやらないと煮え切らぬ人間になつて了ふ。そして日本人ともつかずアメリカ人ともつかない利己的な人間になつて了ふ虞がある。どちらにも定めぬ

といふ親の意見が日和見的な利己的な考である。

かうした考から二重国籍を子供にもたしておく親の感化を受けた子供が立派に成長するとは考へられない。此點からいうて私は二重国籍をもたさないやうに早く子供の爲めに決定するのが親の義務だと思ふ。

日本から来た両親に生れた子供が、日本の国籍を脱してアメリカ市民として成長する以上は、アメリカ魂の中心を把握し、アメリカを抱擁し、アメリカに同化して自己の双肩に全アメリカの運命を擔ふ覺悟がなくてはならぬ。アメリカに於て都合がよければアメリカの市民権をもつてゐよう。若し都合がわるければ日本に歸らうといふやうな人は御都合主義の人である。こんな人はアメリカに於て重要な地位を占められないのは當然である。アメリカを他國と考へないで、アメリカは自分の國であると思へて行くのはその親がどこの國であつても、アメリカ市民としての當然の義務だと思ふ。だから教育は日本で受けるにしても、アメリカで受けるにしても、常にアメリカをどうしようかといふことを考へて進まねばならぬ。アメリカ人として考へた上、今のア

メリカの政治家の考が間違つてゐるとすれば、アメリカ自身の爲めに彼等に反對するもよし。併しその両親の本國の爲めに反對するやうなことがあつてはならぬ。日本とアメリカと戦争するやうなことはないやうに努力するのは、日系市民の大切な仕事であらう。

併し不幸にして日米戦争が起るとすれば、いくら日系市民でもアメリカの爲めに働くべき義務がある。世界大戦の時獨系市民が獨逸に對して、アメリカに盡すのが當然の義務と考へられたではないか。日本の昔の歴史を見てもさうあるべきだと思ふ。戦國時代に初は親しうして縁組をした兩家が不幸にも敵國となる場合がある、さうした場合には夫の家に入籍した妻は親の爲めに盡すべきではなくして、夫の爲めに殉ずるといふのが日本道徳の教ふる所である。

『本朝二十四孝』の戯曲に出てゐるあの八重垣姫は、夫勝頼の爲めに勝頼の敵である父の家から諏訪法性の兜を盗み出して、夫の爲に盡した事が親孝行の鏡とされてゐる。又一の谷合戦の際、元は平家に仕へてゐた熊谷直實が源氏方となり一の谷合戦に元の

主人であつた平家と戦ふやうになり、その平家の若武者敦盛を討たねばならぬやうになり涙を飲んで討つた。そして源氏の爲に盡した。かくて後彼れは源平を超えて法然聖人の門下に入つて出家するやうになつた。情の上では敦盛を討つに忍びなかつたけれども大義名分の上で彼れは敦盛を討つた。ここに日本の武士道がある。此點からいへば日系のアメリカ人も日米親善に最善の努力を拂つた後、萬止むを得ずして戦端が開けるとするならば、情の上では忍びないとしても親の國に筒先きを向けるのが大和魂の發露ではあるまいか。

かう書いてゐるうちに、私の胸がどきどきするやうに感ずる。此の感じはアメリカ市民を子に持つてゐる親の胸に湧く血の音である。此の血の躍る所に日本人の魂がある。此の血を多分に貯へる私ではあるが、而も私は此の胸の血の躍るのを抑へつてアメリカ人となつた以上はたとひ親の國であらうと、アメリカの敵國には筒先きを向けるのが當然だと断定せねばならぬ。大和魂を持つてゐる私達は、私達の血を引いた若い人に、汝は間喋になれと自信を以ていふことが出来るだらうか。

都合のいい時にはアメリカ人となり、アメリカが存亡の時機に達したら鞍替をしてもよいといふことは、日本人の血を受けた私としては彼等に言ひ聞かすことが出来ない。さういふ考をもつてゐる青年ならばアメリカの國に於て重要な地位を占めることが出来ない。私達は日本人の血は功利的に動かないことを信じてゐる。あやふやなことをしてゐる事の出来ぬのが日本人だと思ふ。思ひ切つてスパイになるといふ覺悟ならばそれでもよい。併し私はさうしたことを多くの人に望まない。若し日本の血をうけた日系青年が、その親の國を愛するならば彼等自身アメリカ魂の上に立脚してアメリカをしてアメリカたらしめ、全アメリカを提げて祖國と融和するやうに努力してほしい。彼等の力が重大になれば日米は親善になるに違ひない。

併し英國から來たピュリタンの末裔が、英國に對して獨立戦争をしたのが英國の血を汚した處置とは思はない。若し祖國の同胞が祖國自身の精神にもとるやうなことがあるならば、アメリカを提げて祖國に對する膺懲の戦ひをしてもよいと思ふ。戦争は侵略的の考に依つてのみなさるべきではない、場合に依つては熱愛の心から膺懲の心

を以てなさるべきである。たとへば天照大神の和魂に對してその弟の須佐之男命の荒魂があるのがそれである。

終りにのぞんで私は他國の血を受けたアメリカの青年に一言したい。一九二七年に私は希臘から土耳其の方に遊んだ。希臘の田舎に行くと粗末なバラック造りの家があちこちに建つてゐる。そこに誰が住んでゐるか聞いた。そのバラックは國立であつて、歐洲大戰後土耳其から追ひ返された人が住んでゐるのだと案内者は語つた。歐洲大戰の際土耳其は獨逸に味方し、希臘は聯合軍に加はつた。戦後の條約に於て戰敗國であつた土耳其は歐洲に於ける全領土を失うた。ただコンスタンチノブルだけは自由都府のやうな状態で土耳其領に残し、その近郊に至るまでギリシャ其他新興の小國に屬せしむることになつた。土耳其はアジャに退却し主府をアングラに定むるの止むなきに至つた。その復讐として土耳其は小亞細亞スミルナ地方に數百年前から住んでゐたギリシャ人の全財産を沒收して追放した、民衆的激昂をもつて希臘系の人々が小亞細亞に居られぬやうに仕向けて來た。さうなると希臘は知らぬというて居られないの

で、貧乏な國であるがそれらの窮民を迎へざるを得なかつたのである。

コンスタンチノブルへ行つてみると、此處にはまだ希臘人の商人が居た。併し彼等も早晚追放するのだと、私の案内をした若いトルコ人が意氣まいてゐた。かうした状態を見ると、今の日系市民が三代四代と續いた後になつても、場合によつては米國から追放せられることがあるかも知れぬ、これらの人達が米國の重要な地位に立つて米國を支配してをれば、かうした事は起らないけれども、若し伴食の地位にあればかうした事が起りうるのである。此の場合には祖國日本は否應なしに彼等を迎へる義務があるのである。今のアメリカはジュウの支配する國だといふ者もある。併しジュウは祖國を有たない、そこに或はジュウの強味があるのかも知れない。ニグロとパケとは確な祖國がない。此處に彼等の強味があるのかも知れない。彼等は頼るべき祖國がないといふところに背水の陣をしいて進む勇氣がある。

よい里方をもつた嫁は羽振りはきけるが、そこに彼れの弱點もある。強い祖國を有つた者には肩身の廣い所もあるが、そこに彼等の弱さもある。アメリカの新市民はそ

の祖國と永久に分離することが出来ぬことを知る時に、祖國の隆盛を念ずるのは當然であると思ふが、祖國の隆盛なことにたよつて、自分の進むべき道に油斷をすることのないやうに不斷の反省をなし、常に油斷のない努力を拂はねばならぬと考へます。以上ハワイに来てから二重國籍問題をしばしば耳にしたので、いろいろ考へさせられたことを二ヶ月間ハワイに暮させて頂いた御禮の爲めに、考をまとめて此處に發表させて頂いたやうな次第であります。

—一九三三・三・二七—ワイメアにて—

この文はホノルルの『布哇報知』『日布時事』とヒロの『布哇毎日』とに掲載せられた。

アメリカ人とは誰か

ハワイに来てからアメリカ人は何うだの、かうだのといふ言葉を度々聞く。私達に妙に聞えるのは所謂日系市民なる人達が、自分がアメリカ人でないやうな積りである。自分の子供の國籍をアメリカに定めておきながら、自分の子供の外にアメリカ人があるやうに思つてゐる人が随分あることである。自分の子供でも人の家に嫁にやつて其處の家に入籍した以上は自分の家のものではない。それを自分の家の者のやうに取扱ふことは嫁入先の人の感じを悪くさせ、場合に依つては離婚の浮目を負ふことがある。いくら自分の子供でもアメリカに於て生れて、日本の國籍を削除した以上、たとひ親子の關係はなくならぬにしても、他國人同志であるといふ事を思はねばならぬ。私のニューヨークに於ける一友人は兩親は英國から來た人であるし、細君は英國生れの者である。そしてその一人娘が英國に嫁入してゐる。然し彼れは米國人たる事を

免れぬ。彼れの細君に米國がよいか、英國がよいかと聞いたら主人の母が米國にゐるから自分は米國に住まはねばならぬというてゐた。かういふ事を聞くとアングロサクソンの人でも、日本人と殆ど違はぬ人情を有つてゐると思ふ。

此ちらに住んでゐる日本人は、アメリカ人といへばアングロサクソンに限つてゐるやうに思つてゐる人も少くないやうだ。私共に見るとアメリカ人といへば、英國種もあれば、獨逸種もあり、フランス種もあり、伊太利、 그리스、スペイン、ロシア、スエデン、ノルウェー其他のヨーロッパ種の人もあり、ニグロもあり、インディアもあり、カナカもあり、支那種もあり、日本種もあると思つてゐる。同じ英國種といつてもイングランドの出の人もあり、スコットランド出の人もあり、アイルランド出の人もある。これだけの間でも人間の性質に變り目がある。たとへばイングランド人は役人的であり、スコットランド人は商人的であり、アイルランド人は詩人的であるといふやうなちがつた傾向がある。同じ獨逸人といつても、ベルリンを中心としたプロシヤ人と、ミュンヘンを中心とした南方獨逸のバイエル人と性質が違つてゐる。

アメリカ人といへば、世界中の人種が集合したものである。アメリカ人の中には白人も黒人も赤人も黄人もあるのである。

然るに白人だけをアメリカ人と思つてゐる人がある、これは大なる誤謬である。然しその誤謬の由つて來るところを考へると譯がないでもない。アメリカに初めに植民したのはスペインである。それからフランス、英國と相次いで移住してきた。前に居るといふことからいへば、アメリカ人はインディアンでなければならぬ。然らずんばスペイン人かフランス人でなければならぬ。ところが今日アメリカの國語は英語が基調となつてゐる。勿論今日アメリカの英語には各國の語が混つてゐるので、英國の英語とは大分變つてゐる。英語といふよりも米國語といはねばならぬほど變つてゐる。とはいへその語脈は一つである。言語の點から見ると英語を話す人種がアメリカの主體となつてゐる事がわかる。

アメリカの獨立した際に最も働いた人種、次に南北戦争の時に勝利を得た人種、それが英國種であつた事が、今日のアメリカの中心勢力がアングロサクソンにある所以

であると思ふ。

アメリカに旅をして見ると、アメリカの中心に英國のピユリタンの思想が多分に流れてゐることを見る。これと同時に萬事を弗にて解決しようとしてゐる所謂近代のアメリカ的思想の中心には、ユダヤ人の思想が浸こんでゐる様に見える。大統領などの行り口を見ても殆ど兩立しがたく見える、ピユリタン思想と拜金思想とがごつちやになつて表れるやうな感のするやうなことがある。アメリカの政治家は一面ピユリタンの人道主義を云々する、さうかと思ふとユダヤ思想に凝り固まつてゐる資本家の意見を通すやうなこともする。ウキルソンが人道的な提議をしたからというて、アメリカ全體が人道主義と思うたら間違ひである。國際道徳を云々してゐるスチムソン氏は必ずしも人道的な政治家と思ふことは出来ぬ。私達はアメリカを單に弗の國と思つてはならぬと同時に、單にピユリタンの國と思ふ事も出来ぬ。

人種の如何にかかはらず、今日のアメリカ思想には確に此二傾向が調和せられずに流れてゐるやうに思はれる。然も實力は弗主義に動いて行くやうである。弗主義の動

きが勝つてゆく時にはユダヤ人の支配が行はれてゐるのである。

先年アメリカに遊んだ際に、アメリカの前途を考へてゐる人から、將來のアメリカは黒人の問題だといつてゐるのを聞いた。英國種も佛國種もドイツ種も凡ての白人種が黒人を輕侮することは、我々日本人としては考へることの出来ぬほど極端なものである。南北戦争は此が爲めに起り、奴隸廢止が法律上に定められてから百年以上も経つのに、南方アメリカに行くとき停車場のベンチに汽車に、黒人だけに制限されたもののあるのを見て、私はピユリタンのアメリカに何處に基督教的な博愛の心があるかと叫びたくなるのである。ハワイに来て見ても今日の多くの地主の祖先は宣教師であつたといふ事を聞いて、その宣教師の心にキリスト教のなかつた事を考へずには居られない。人を虐げてゐる者はその報復に就て自然に恐れがある。白人種のアメリカ人の恐れは黒人の將來にあるのである。多くの黒人と話して見たが、彼等はつねに白人系の米國人を怨んでゐる。そして何時か怨みを晴らす時が来るのを待つてゐる。その黒人は多くの子を生む。だんだん知識も啓發せられ、代議士をも有するやうになつた。

多數によつて大統領を選挙する米國の事だから、黑人から大統領が出るやうになる事は考へられぬ事ではない。日系米人からも大統領選出の可能性もある譯である。

いま私は座右に統計表を有たぬから、米國人の何國の種をうけてゐる者が多數であるかといふことを確實にする事は出来ない。如何に英國種の人々が澤山居るとしても、他の凡ての人種を壓倒するほど多人數居るわけではあるまい。

今の米國がアングロサクソンの如く考へられるのは、アングロサクソンの人達が全體として米國を考へる人が多からではあるまいか。つねに自分を伴食の地位に於て國のことを考へるものは、永久伴食の地位に居るより他はない。その國の主要な地位は國全體を統一的に考へてゐる人の占むべき地位であると思ふ。百年以前までスペインがカリフォルニアを有つてゐた、それを金でアメリカに賣つたのだ。賣られた土地に住んでゐるスペイン人も共に賣られたやうな形である。かうなると奴隸になつて賣られてきたニグロとスペイン人とは距りが無いやうに考へられねばならぬ。南北戦争は奴隸制度を中心として起つたアングロサクソンとラテン民族との戦争であつた、そしてアングロサクソンが勝つた。此れが今日米國人といへばアングロサクソンの事を思はしめる原因となつたものである。

今までのことはどうであつたにしろ、此れからの典型的米國人として、米國を支配する者は誰だらう。それは人種の系統が何處に屬するにしろ、常にアメリカ全體を頭腦に入れて考へてゆく人種に歸するに違ひない。かう思ふ時に私は日系アメリカ人諸君に對して、諸君がアメリカ人といへばアングロサクソンのやうに考へる思想を蟬脱して自分は純粹なアメリカ人である。アメリカを建てるも倒すも自分の責任だといふ風に確な自覺のもとにたち働いてもらひたい。

日系市民は學校を卒業するまでは優等の地位に居るが、卒業の後には白人が雇うてくれないから進路が開けないというてゐた人がある。何もアメリカが白人專有の國ではあるまい、現在のアメリカに白人が勢力を有つてゐるのは事實だが、白人が勢力を有つてゐる以上、日系米人に便利は少からう。だからこそ日系米人は奮勵しなくてはならぬ。日本人の血には臥薪嘗膽の忍耐があるのである。忍耐の努力がなくて何が出來

よう。

官約移民の子が大學を卒業するまでになつた、これは初代同胞の忍耐行の賜である。大學卒業者がアメリカの社會を改造する爲には、第一世が黍畑で白人の鞭を受つて忍んで働いた丈の忍耐と精進がなくてはならぬ。アメリカを白人のアメリカと考ふべきではない。常に自分のアメリカとして考へなければならぬ。自分のアメリカの中には白人もあり黒人もある。凡ての人種を抱擁して彼等の凡てに適當な地位を得られるやうな社會を考へて行く者がアメリカの中心人物となるのである。その道を進むには常にアメリカ人は斯うだと自分を他にしてアメリカ人を云々する習慣を破つて、アメリカ人である自分だからアメリカの凡ての惡に責任を感じ、此れの撲滅を自分の上に期せねばならぬ。全體の惡に責任を感じないものは、全體の善にはほころぶことが出来ぬのである。

私は先日來日系市民の人達の言ふことを聞いて、何となく彼等にアメリカを背負つて立つ進取的勇氣を缺いでゐるやうな感じにうたれたから、彼等にアメリカ魂を自覺

してメーソン氏の所謂『創造的自由』の大和魂を發揮するやうに一言させて貰つた次第である。スポーツとトーキーとダンスに餘念のないハワイ青年が、故國の一老人の苦言に耳を傾くるの概ありや。

——一九三三・三・二九——ホノルルにて——

この文はホノルルの『布哇報知』『日布時事』とヒロの『布哇毎日』とに掲載せられた。

ボストンとニューヨーク

アメリカの歩んで行く方向が二方に分れて居る。そしてその中に或る調和を見出さんとして居るやうに感ぜられる、此處に健全なるアメリカ文化の發祥を見る事であらうと思ふ。今日のアメリカには取り立てて文化といふやうなものを見出す事が出来ない、然し將來のアメリカには面白い文化が發生するに違ひないと考へられる。

アメリカの文化思想の歩みにはボストンとニューヨークとよい對照だと思ふ。ニューヨークは世界に比類のない繁華な都會である。パリでもベルリンでもロンドンでも立派な都會ではあるが、此れらの都會を見てきた眼でニューヨークを見ても流石新興の一等國米國の都會だなあと思はずには居られない。ニューヨークで一番目立つものは大建築である。一九二九年私が行った頃には、五十六階の家が一番高い家であつた、何でも此の高い家はパリーの人が物好きに拵へたエッフェル塔を實用的に造らうと

したのが、此の五十六階の家であると聞いた。又此の高い建築物を建てた人は、拾仙ストアを始めて金儲けをした人だといふことも聞いた。廣く金を儲け高い家を建て、此處が確にアメリカ式のところである。民衆の多數に人望を有する者が最高の地位である大統領になることの出来るアメリカとしては、拾仙ストアの主人が此の五十六階の家を建てたのは驚くには及ばぬ。その頃百階の家が建築中であつたから今で出来る事と思ふ。私はセントラルステーションのコンモダーといふホテルの二十二階に泊つてゐた。電力が自由に用ひられてゐるので、此の高い部屋の住居も何等の不自由も感じないやうになつてゐた。パリもベルリンもロンドンも高い家といつても七階くらゐが一番高い家である。此ういふ家建から一足飛びに百階の家を建てたのが米國人である。此れらの建築が、その外部の恰好を見ても室内に入つて見ても、我々の眼には何らの美的觀念が起らない。凡てが實用的だ。かかる宏壯な建物ではあるが、その中のルームはこぼろぎ箱のやうだ。凡て美といふ事よりも實用といふ事が重んじられてゐる國民性が、ニューヨークといふ都會の上に遺憾なく發揮されてゐる。流石は

プラグマチズムの哲學の生れた國の都會だなど感ぜざるを得なかつた。ニューヨークの街にアメリカの進歩の階程がその種々の建築様式の上によく現はれてゐる。場末に行くと昔の名残を止めた家が折々見られるが、中央部に行けば新しい様式になつてゐる。その新しい様式の中でも従來は直角的な建物であつたが、近來は上部の方が少しつぼんだのが試みられてゐる。餘り直角的だと上部が割れさうに感じられるので上部を少しつぼむやうに見得を飾つたのであらう。何を見てもニューヨークは新しいものから新しいものへと進んでゆくスピード本位の街である。これほど創造的進化的精神に燃え立つてゐる都會は、地球上何れのところへ行つても見られない。新アメリカは確にニューヨークに表現されて居る。此の盛んなニューヨークの根柢になつてゐるものは電力である。百階の家も高架線も地下線も凡て電力の基礎の上に計畫されないものはないのである。此の事を思ふと、私はニューヨークから程遠からぬニューオレオンに住んでゐた故エヂソン氏のことを思はずには居られない。電力はもとよりエヂソン氏の獨占的のものではない。然し電力を凡ゆるものに應用することに於てエヂソン

ンをその代表者とする事は誰にも異存はあるまい。此のことを思うたので先年私はニューヨークから態々ニューヨークに足を運んだ。電力のもとに凡て新しいものを追うてゐるニューヨークの中には、美術館があり、自然科学博物館がある。美術館には各國の古い美術品が貯へられてある。自然科学博物館には原始民族の凡ての遺物が随分丹念に蒐集されてある。日本から山中商會が支店を設けて日本・支那・印度方面の古い美術品を商うて居ることの出来ることを以ても、新しい事を追うてゐるニューヨークにも古い事を忘れない一面のある事を思はせられるのである。

米國人が古い藝術の研究に心を傾けて居る事を考へる時に、ニューヨークから十時間までかからないで行かれるボストン市のことを思はずには居られない。ボストンは古い赤煉瓦の英國式の建築物を多分に見ることの出来る都會である。ボストンが世界に名の知られるのは此處の美術館に依つてである。此處の美術館には印度・支那・日本の古い時代の藝術品が澤山に集められてある。又エチプト・ギリシャ・バビロンあたりの古い藝術品も集められてある。又近代ヨーロッパの有名な繪畫も相當に集められて

ある。殊に日本部に於てはフェノロサーに次いで、岡倉覺三氏によつて丹念に蒐集せられた日本の古い藝術品が澤山に陳列せられてある。錦繪のごときは日本で研究するよりも此處での方が便利だと云はれる程に整備してをる。ボストンの博物館を見る時にアメリカ人が古い文化に對する渴仰の心を多分に有つてゐることがわかる、ボストンのすぐ横にハーバート大學がある。此の大學ではゼームスやロイスや、近代的な哲學者を生んだ。いま尙老年で教授の職に當つて居られるムーア教授に會うた時などは、流石はピュリタンの建てた米國の大學の老教授だなど敬服の念を禁ずることが出来なかつた。ボストンから自動車で一時間ばかりで行かれる處に、コンコルドといふ小さな街がある。此處はエマソンやチャンニングやトロローなどが居た處である。アメリカの精神文化の發祥地は此處である。私はニューヨークの底に流るるエヂソンの力を思はずには居られない。と同時に、ボストンの中心に流るるエマソンの力を思はずには居られない。ニューヨークとボストン、エヂソンとエマソンとはたしかにアメリカの二大文化思想の潮流を代表する人だと思ふ。

アメリカといへば拜金宗の人ばかり居る處だと思ふ人は、ニューヨークから二三日の暇を思ひ切つてポストンからコンコルドの田舎の方へ旅をして見るとよい。此あたりには確にピュリタンの建てたアメリカを彷彿せしめる處が澤山にある。

新しいものを熱心に追うてゐるアメリカ人は、一方古い各國の文化の跡を追ふことに冷淡ではない。何物にでも多くの輸入税をとるアメリカでも、百年以上の古い藝術品には關税をとらないといふことにも、彼等が自分の國の文化の歴史の薄へらなことを感じ、他國から古い文化を輸入することに努力してゐる跡が見える。古きを温ねて新しきを知るといふ支那人の語がある。アメリカ人にはたしかに古きを温ねる襟度がある。ポストンにも山中商會の支店の存在出来るほど古い藝術の鑑賞家が集まつてゐるのである。アメリカ人が金にまかして古い藝術品を買ふのは、單なるキュリオシテイからばかりではなく、確に自國の缺點を補はんとする健氣な心懸けからであると思ふ。

シカゴ大學にバビロン・アッシリア館・ギリシャ館・エチプト館などがある。ニューヨーク

ークのコロンビア大學でも、ポストンの大學でも、シカゴの大學でも多大な費を投じてギリシャ・エチプト・アラビヤ方面に古い藝術品の發掘隊を派遣してゐるのである。

ロンドンの博物館には世界で最も澤山な蒐集物があるだらう。パリーのルーブルにも印度・支那殊にエチプトからバビロン・アッシリアの古いものが集められてゐる。英國の文化はブリテツシミュージアムに依つて養はれる點が多いことと思ふ。世界中の藝術家がパリーを憧れるのはパリーにルーブルがあるためではなからうか。

自分の國に模範とすべき古い文化を有たぬアメリカは、世界中の古い文化の蒐集に努力してゐるのである。歐洲大戰の後戰敗國であつたトルコは非常な疲弊をした。コンスタンチノーブルの博物館にアレキサンダー大帝の石棺がある、その彫刻はする分立派なものである。アメリカはこの石棺を三百萬弗で買はうと申出たが、トルコはこれを賣らなかつたといふことを、一九二七年に私はコンスタンチノーブルの此の石棺の横でその案内者から聞いた。いくらお金のある國だといつても石棺を一つ買ふのに三百萬弗を惜しまないといふアメリカには確に古い藝術品に對する渴仰心を見るこ

とが出来るではないか。

一寸外面を見ると今のアメリカはニューヨークで代表せられ、其ニューヨークはナショナルバンクとアメリカイタリアンバンクに依つて代表せられるやうに感ぜられる。そしてジュウの支配下にあるかの如き感もある。然しアメリカにはその眞底にポストンが表現してゐる精神的傾向の流れを有つてゐる。此の思想傾向はつねに東洋やヨーロッパに於ける古い國々に對して尊敬を拂ひ研究に餘念がないのである。私は先年東部アメリカの各博物館、美術館を見てアメリカ文化の將來に大いに期待すべきものあることを感じた。アメリカといへば、金ばかり、機械ばかりの國、トーカーと自動車のある國であると決めるのは早計である。アメリカにはたしかにポストンが表現する一面がある。將來のアメリカは此の二つの潮流の統一調和に依つて現はれてくるに違ひないと思ふ。

ハワイに来てから日系のアメリカ人が、アメリカに於て學べばよいか、日本に於て學べばよいかといふことを相談せられる人達がある。此の問題はニューヨークとボス

トンとの二大潮流に棹すアメリカ人として興味ある問題だと思ふ。アメリカの大學へか、日本の大學へかといふ問題は、やがてはニューヨークかボストンへかといふ問題ではあるまいか。

安井君から『同胞』誌上に何か書けと言はるるままに、いま買物の案内に安井君が來らるるのを待つ時間を利用して此の一文を記した。

——一九三三・四・六——ホノルルにて——

一。昭和四年渡布の折に

北安田にて

とつくにに旅だつあした紅梅のつぼみあかあかいろづけるかな。

ほのぼのとあさ日にほふ紅梅をかへりみしつづ旅に出るかな。(昭和四・四・五)

京都にて

異國の人の心にひそみをるほとけを見んと船出するかな。

禪寺の筍の味にうしろ髪つよく引かれてこと國に行く。(昭和四・四・六)

西の宮にて

み佛のあれましし日をことほぐと白木蓮の花の咲きにけるかな。(松本家にて)

異國に行くを送ると日の本のさくらの花の咲きさかるかな。(昭和四・四・八)

金のくに機械の國のあめりかに人のまことを見んとわれ行く。

日の本の花にそむきて海はるかわがかげ追うて船出するかな。(昭和四・四・二〇)

うつくしき花に送られ春かすみたなびく海に船出せしかな。

うるほひのある花の雨に送られていさみながらも涙するかな。

せめてもの思ひをつなぐ五色のてつぷに雨のむごく降りけり。

わざも子は最後の銅鑼に驚きておろおろ船を下りて行きけり。(昭和四・四・二二)

夜も晝も獨りきやびんに寝てあれば自ら念佛湧き出づるかな。

獨居のきやびんゆたかに別れ來し懐しき人を戀ひわたるかな。(昭和四・四・二三)

大洋にふさはぬしぶ雨が降り旅の心のうるほへるかな。

數多き見送りの中にうつむきてわれを見ざりしあの人ばかり。

恵まれたの我にしあれば我が乗れる海の行手に禍あらじ。

とつ國の幼な子の母にあまへ居る聲に聞きほるる隣の部屋に。(昭和四・四・二四)

朝飯を終へてでつきの長椅子に寝轉びながら海を見るかな。

椅子に寝る頬にしぶきの觸れてよき太平洋の春の雨かな。

ぺんき塗り船の中なるぺんき塗り終日ぺんき塗りて暮せり。

天地のめぐみになれし獨り子はあつき恵に常にたらへり。

子を連れし若き女の折々に我が室に來て道を問ひけり。

一七二

獨り居て人戀ひをれば何事の障もあらで心くつろぐ。(昭和四・四・一五)

一

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからにやはらぎあれよ。

二

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからにうやまひあれよ。

三

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからにくつろぎあれよ。

四

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからにつつしみあれよ。

五

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからによるこびあれよ。

六

みほとけに召されてここにつどひたる我がはらからにかがやきあれよ。

(以上六種讚佛歌)

みちりみちり船床の軋む音にさへ馴れてのどけき夢に入りけり。

日の本の名残とどむる生け花のしをれて悲し船路遙けく。

萎れたる花見れば悲しさりながら捨てるにたへず其儘におく。(昭和四・四・一七)

珍らしく船にあひければ船の中の人喜びにどよめけるかな。

菜畑を耕しつかれ畦にいこひひさごかたむく太平の民。(船長室にて或人の繪に賛す)

夕暮の川添ひ道をかへり來れば村のお寺の鐘の聞ゆる。(同上)(昭和四・四・一七)

一七三

ホノルルにて
手を合せ我を拜みて去り行きし人なつかしく思ひをるかな。

高臺に車走らせ海沿の町のともしを眺めつるかな。(昭和四・四・二二)

大いなるばるむとりるの下に立ちいだき見にけりもの珍らしく。(昭和四・四・二三)

火山にて

煙立つ地ひびの横にたたすみて心に燃ゆる火を顧る。

どろどろと硫黄はき出す谷間にあたたかき硫黄を拾ひけるかな。

鳥のなく山に遊びて山莓とりてよろこびあうてをるかな。

莓つみほほづきとりてもろ鳥のなく音ききつつ山遊びすも。

月見草山吹桔梗山菊の花さきてあり鳥なく林。

とつ國にたらちねの逝きし日を迎へ好みたまひし筈を捧ぐ。(昭和四・四・二九)

ヒロにて

椰子島の椰子の木蔭にたたすみて小舟漕ぎくるかなか人見る。

あんもらの大木の下に房になるあんもらを見てみ佛を想ふ。

椰子並木續ける町を夕暮の風なつかしみ車走らす。

今日も亦日毎雨降るひろの町ひねもす晴れし日にあはざりき。

書くことに稍疲れたる四つさがり冷えしばばいやに息をつぐかな。

いにしへのかなかの人の祀りたるかふなの像を貰ひたるかな。

ここも亦やまとの人の住む家か椰子の木の間に鯉轍たつ。(昭和四・五・三)

一七六

見晴の好き部屋に居て波の音に聞き惚れ居ればさりあへぬかな。

ふるさとの壽司のもてなしなつかしき異國の島にさすらふ我に。(昭和四・五・六)

カワイ島にて

こうけいの谷見下せば谷ふかく川の流れて白き鳥とぶ。

草青き三千尺の谷底に動くものあり山生の山羊。

山の端にこわの枯れ枝に静まりて我が車見る雉子のありけり。

山の上の庵にうたげしみはるかす海のあなたのふるさと思ふ。

山の端の小川のへりに車下りてらんちやなの花を手折りみるかな。

らんちやなの花はかはゆしらんちやなは種々の色に咲いて珍らし。(昭和四・五・一〇)

いにしへのかなかの人の用ひたる石の器を貰ひつるかな。

かなか人の用ひし石器のいろいろを貰ひてうれしわいめあの寺。(昭和四・五・一一)

ホノルルにて

見はるかすばいんあつふるの高丘のあなたの海に赤く日のいる。

かなか人の笑ひ晴れ晴れやしの木の林にもれて夕風すすし。

雪舟の繪に見るごとくそそりたつ山めづらしみあかず見るかな。

きび畑にほれほれ歌をうたひつつ働く人をふしをかむかな。

ほのるるの別の夕もてなしのふらふら踊涙して見る。

ほのるるの終の夜更まつさあちの供養をうけてくつろげるかな。(昭和四・五・一七)

一七七

二。昭和八年渡布の折に

大洋丸にて

白ばらのかをりゆかしも日をかさね太平洋の波静かなり。(昭和八・二・二)
 やすらではたらく人のなさけにて大海原を船は馳せゆく。

石炭のもゆる力に大船は波をけたてて海原こゆる。

夕ぐれのキャビンにねむりうつらうつら家にのこせる人をこふかな。

家にゐても多く語らぬ父と子がひとつキャビンに長き旅する。

外國に旅する人を戀ひわたり花に涙をそそぎをるかな。

船體のみしりみしりきしむ音に大洋の夜の更けてゆくかな。(昭和八・二・二)

なさけこもる白ばらの花はちりにけり故國へだてて船路四日目。

見はるかすかぎりはてなき海原を日數はせゆきなほもはてなき。

電燈の光まばゆきスモークにひとり静かにうたをかくかな。

白ばらの散るをいたみて海見れば海もくもりて心くらしも。

やすらひてうまいするまに我が船は急ぎはせゆくめざす港に。

願はくはひとりあらしめ船べりに波の音きさひとりなかしめ。

船べりに波の音きけばうらさびしこのさびしさに夜毎したしむ。

海神と語らふごときこちして船の夜ふけに波の音をきく。

一八〇

我が願ひおほいなる船を動かして大海原の波にのりゆく。(昭和八・二・三)

海原にましろ花さく白波の白く砕けて日に光るかな。

船にあればぬすぎくひすぎなまけすぎ病得んとす心してあれ。

その人の聲やはするとめざむれば我はキャビンに横はりあり。

我が船は熱帯圏に近づくかデッキを拂ふ風なまぬるき。(昭和八・二・四)

みちりみちり身をうごかせて我が船はさかまく波をわけてはせゆく。

波高く船のゆるげばかりこまりひねもすキャビンにものおもひをる。

横はりその人の上を思ひをればせまきキャビンにもろ人きたる。(昭和八・二・五)

甲板の青葉のへやに南國の小鳥の聲にききほれをるも。

なぎの日も大あれの日も我が船は一心不亂に走りつづけり。

故郷は雪に埋れてあるらんに我がのる船は夏に入りけり。

この夕スモークの戸開かれてそよ風いるる夏はきにけり。

毛のシャツをぬぎて木綿のシャツにかへ甲板をあるき風にふかるる。

さらさらと船路に残る波の音をデッキにたちておもしろくきく。

往けどゆけどくもりつづきて日も星もかくれて波のうねりのみ見ゆ。

一八一

數百の電燈はひとりの我がためか廣きスモークに入影をみす。

潮風の船に激してひゆうひゆうと男々しき樂をかなでをるかな。

甲板の欄によりたち潮風に頬を洗はせてうたひをるかな。

たまさかに雲間もる日のかげをがむされど見えざり紺青の空。

をりをりは話に君のこともでる太平洋の船のデッキに。(伊勢の濱中君に)

水車まへる川瀬を思ふかな太平洋の波の音きき。(松任の青木君に)

船旅のうさなぐさむと船人ら藝のかぎりをつくし見せけり。

食堂の演藝會の中入にアイスクリームのもてなされけり。(昭和八・二・六)

めづらしく空晴れわたりぬくぬくと雲の峯たつ船のゆくてに。

初夏の風なつかしみ甲板を誦しながらいくめぐりせり。

甲板のすきやき會に日本服の西洋婦人も交りをるかな。

沈丁花の香のする風をなつかしみ植物室に文をかくかな。

たけ高きさつきの花の横にゐてレコードをきく船の夕ぐれ。

夕ぐれの上甲板に杖ひけば大煙突に月のかかれり。

吾妹らは雪の梢にみん月を上甲板にすすみつつ見る。(昭和八・二・七)

ホノルルにて

大粒の雨にたたかれコナツの葉のたれてあるホノルルの街。